

マイスター・ハイスクール普及促進事業

北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト

令和6年度（2024年度）成果報告書



商業

家庭

農業

工業

看護

水産

福祉



～専門高校とは～

職業教育を主とする学科を設置する高校を「専門高校」といい、本道には7つの学科の専門高校が設置されています。

令和7年（2025年）3月

北海道教育庁学校教育局高校教育課



産業界と一体となった専門高校 ONE-TEAM の取組

北海道教育庁学校教育局高校教育課長 高 田 安 利

本道においては、広域分散型という特性上、学科や地域産業の特色等に応じて、専門高校が分散して設置されており、これまでも、地域で活躍する職業人を育成するとともに、勤労観・職業観の育成、豊かな感性や創造性を養う総合的な人間教育の場としても大きな役割を果たしてきました。

こうした中、近年、第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション、6次産業化など、産業構造や仕事の内容が急速かつ絶えず革新する中、専門高校では、産業構造の絶え間ない変化に即応した職業人材の育成が急務となっています。

このような背景・課題に対応するため、北海道教育委員会では、文部科学省「マイスター・ハイスクール普及促進事業」の指定を受け、北海道静内農業高等学校が国の「マイスター・ハイスクール事業」（令和3～5年度）で構築した職業人材育成システムを参考に、専門高校と産業界とのサステナブル（持続可能）な連携体制の構築を目指し、令和6年度からの2か年事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」に取り組んでいます。

本プロジェクトでは、高校教育課に配置している産学連携コーディネーターを中心として、「横」と「縦」の2つの視点で、専門高校を支援しています。

「横」の視点とは、専門高校が学校・学科の垣根を越えて連携し、効果的な職業人材育成システムの取組を、他の専門高校に自走可能な形で横展開することであり、「縦」の視点とは、専門高校と企業や中学校との連携を促進するとともに、専門高校の価値や魅力を広く普及・啓発することです。

さらに、これらの取組を円滑かつ効果的に実行するため、産業界等の有識者で構成される事業運営委員会「ONE-TEAM コミッティ」を設置・運営しており、委員の皆様には、本プロジェクトの推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を通じて、専門的見地から貴重な助言等をいただいています。

プロジェクト2年目となる令和7年度は、北海道静内農業高等学校が、地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを、道内の4圏域に設定した拠点校を中心として実践し、その成果をさらに道内の専門高校に普及することで、全ての専門高校における産業界との連携を充実させてまいります。

結びになりますが、本プロジェクトに際し、御支援・御協力をいただいております皆様に深く感謝申し上げますとともに、学校や産業界、経済団体など、本道産業教育に関係する多くの皆様に本報告書を御高覧いただき、今後の本プロジェクトの充実・発展のため、貴重な御意見や御助言をいただければ幸甚に存じます。



産学連携の実現、その先にある産学融合に向けて

北海道教育庁学校教育局高校教育課

産学連携コーディネーター 月 館 海 斗

令和6年度に始動した「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」は、産学連携コーディネーターである私にとっても、産学連携の可能性を広げる試みとして、日々が学びの連続であり、答えのない中での模索や学校現場との対話を通して取り組んできた一年間でした。

事業運営委員会である「ONE-TEAM コミッティ」による協議内容や、先生方を対象とした学校ヒアリング調査の結果を踏まえて、様々なイベントやセミナーなどを開催してきた中、専門高校の生徒と教員、産業界の方が一堂に会する「産学連携シンポジウム」や「産学連携カンファレンス」では、企業のリアルな声と教育現場の実情が交わる場を設け、双方の視点から「サステナブルな産学連携」について考える機会となりました。

とりわけ、こうしたイベントの場では、生徒、教員に加え、企業の方も立場や役職を越えて、率直に語り合う姿が印象的であり、「お互いの肩書きを越えて共創するからこそ、イノベーションが生まれる。」と実感する瞬間が数多くありました。やはり、教育と産業の接点は、形式的な連携ではなく、人と人の信頼関係から生まれるものであり、その橋渡し役として、私たちが果たすべき役割の大きさをあらためて感じています。

また、中高生向けに制作した「おしごとガイドブック」では、地域を支えている専門高校の卒業生から、それぞれの産業において、高校時代の学びが今の仕事にどう生きているかなど、生の声を多く掲載することで、北海道の未来を創る中高生の「将来の選択肢」が具体的に見えるよう工夫しました。ガイドブックを読んだ中高生からは、「北海道内の魅力ある職業に興味を湧いた。」などの感想が寄せられるなど、多くの中高生や産業界の方々から好評をいただいています。

終わりにになりますが、本プロジェクトの成果は、関係者各位の御尽力と御協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。令和7年度は、北海道静内農業高等学校が培ってきた実践知を拠点校4校が引き継ぎ、道内全域へと展開していく“成果の普及年”です。各地域において、学校が産業界との関係性を大切にしながら、地域に根差した産学連携、そして、その先にある産学融合への支援を続けていきます。引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

目 次

巻頭言

北海道教育庁学校教育局高校教育課長

高 田 安 利

北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター

月 館 海 斗

1	事業の概要	P 1
2	事業概要図	P 2
3	事業内容	
	(1) イベント	
	ア キックオフミーティング	P 4
	イ 産学連携シンポジウム	P 6
	ウ 高校生チャレンジ in どさんこプラザ	P 9
	エ 4 Sサミット	P 11
	オ 産学連携カンファレンス	P 13
	(2) 刊行物（各刊行物の概要は 16 ページに掲載）	
	ア ONE-TEAM ニュース	P 17
	イ 職業学科理解推進ガイド	P 29
	ウ おしごとガイドブック（中学生版、高校生版）	P 40
	エ 産業実務家教員リスト	P 50
	(3) 生徒を対象とした新たな産業や技術革新に対応した取組	
	ア 半導体に関する出前授業	P 53
	イ 洋上風力発電に関する出前授業・見学バスツアー	P 53
	(4) 各種セミナー	
	ア 建設 DX 理解促進セミナー	P 54
	イ 半導体理解促進セミナー	P 56
	ウ 観光産業理解促進セミナー	P 58
	エ 洋上風力発電理解促進セミナー	P 60
	オ 職業学科理解促進セミナー	P 62
	(5) ONE-TEAM コミッティ	P 63
	(6) 各種調査	
	ア 学校ヒアリング	P 64
	イ 企業ヒアリング	P 64
4	成果概要図	P 65
5	成果指標	P 68
6	参考資料	P 69

1 事業の概要

(1) 事業名

北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト

(2) 実施期間

令和6年度（2024年度）から2年間

(3) 令和6年度拠点校

北海道静内農業高等学校

(4) 事業内容

次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入など、産業構造が大きく変化している中、北海道教育委員会に産学連携コーディネーターを配置し、マイスター・ハイスクール事業の指定校における産学連携による教育実践を踏まえ、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する。

(5) 事業運営体制

ア 管理機関（北海道教育委員会）

高校教育課に産学連携コーディネーターを配置するとともに、経済団体、自治体、教育機関等の有識者で構成し、産学連携に係る課題解決に向けた協議等を行う事業運営委員会「ONE-TEAM コミッティ」を設置し、静内農業高校がマイスター・ハイスクール事業で取り組んできた地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを、道内の専門高校に広く発信する。

イ 産学連携コーディネーター

産学連携シンポジウム等の各種イベントの開催や、本事業の取組を紹介した学校や産業界向けの通信の発行などを通じて、学科の特性に応じて、専門高校と産業界等を人的につなげる。

ウ ONE-TEAM コミッティ

有識者8名で構成し、本プロジェクトの円滑な推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言を行う。

(6) 連携体制を構築する産業分野

6次産業（農業、商業、水産）、半導体関連（工業）、洋上風力発電（工業、水産）、観光DX（商業）、スマート農業（農業）、スマート水産業（水産）など

(7) 連携する産業界等名

- ・北海道経済連合会
- ・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
- ・一般社団法人北海道農産協会
- ・北海道産業教育審議会

(8) 公式ロゴマーク

本事業の取組を、効果的かつ幅広く産業界に周知するため、右に示した公式ロゴマークを制作した。中央の7つの★は、本道に設置している7つの職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）を表している。



【図1】公式ロゴマーク

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

本道においては、次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が大きく変化している中、産学連携コーディネーターが産業界と専門高校をつなぎ、先進的な取組を学べる持続可能な連携体制を強化。

専門高校と産業界の連携における課題

- ①連携した取組が少ない
- ②連携の進め方や配慮点が不明
- ③ニーズ等が異なり、連携が進みづらい
- ④教員が多忙なため企業等と調整不足

対応

課題解決の方法

- ①連携ができる企業先を開拓
- ②連携を促進する教員・企業研修を開催
- ③コーディネーターが連携を後押し

参考



市内農業高校の取組

- ◆産業界等と一体となったカリキュラムの刷新・実践
- ◆CEOが企業と学校をコーディネート
- ◆産実務家教員による技術指導等



ONE-TEAMコミットメントの発足



◆1年目(R6)【発信】

市内農業高校（拠点校） × **ONE-TEAMコミットメント**
 拠点校で自走している職業人材育成システムを専門高校へ発信

◆2年目(R7)【横展開】

拠点校を拡大（**農工商水**※） × **ONE-TEAMコミットメント**
 持続可能な職業人材育成システムを専門高校へ横展開

ゴールイメージ



※委員会

産学連携コーディネーターの役割

北の専門高校プラットフォームを創設

◆**人的ネットワークの構築**
 職業学科担当の指導主事と連携し、学科の特性に応じて、専門高校と産業界（企業、振興局、市町村等）を、**人的につなげる**

◆**産実務家教員リストの作成**
 謝金等が不要で出前授業等が可能な**職業人をデータベース化**し、専門高校と産業界のつながりを後押し

◆**産業構造の変化に対応**
 先端技術に従事する技術者を紹介した**お仕事ガイドブック**を制作
 （例）・6次産業 ・半導体関連 ・観光・デジタル技術 ・洋上風力発電 など

【データベース】

- ・産業関係者 ×× ××
- ・産業関係者 ○○ ○○
- ・産業関係者 ▲▲ ▲▲

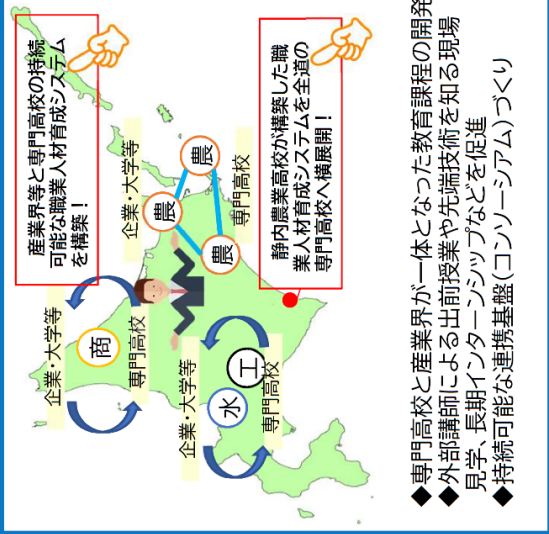
管理機関の役割

- ◆ONE-TEAMコミットメントを設置し、拠点校を中心として事業を推進
- ◆道内の専門高校に職業人材育成システムの構築を目指す
- ◆産学連携コーディネーターを配置し、職業学科担当の指導主事と共に、産学連携に係る課題解決に向けて学校を支援

拠点校の役割

【1年目（市内農業高校）】
 各種ミーティング等を通して連携・協働体制の在り方を発信
 【2年目（農工商水：各1校）】
 各教科の特性に応じた連携・協働体制を検討し、情報を発信

横展開のイメージ図



- ◆専門高校と産業界が一体となった教育課程の開発
- ◆外部講師による出前授業や先端技術を知る現場見学、長期インターンシップなどを促進
- ◆持続可能な連携基盤（コンソーシアム）づくり

【図2】令和6年度事業概要図（1ページ目／全2ページ）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

令和6年度の事業概要

- ◆事業運営委員会「ONE-TEAMコミッティ」を設置し、専門高校のサステナブルな職業人材育成システムの在り方についての協議を行い、キックオフミーティング等を通じて、拠点校（静内農業高校）の取組や成果を広く専門高校に普及・啓発。
- ◆専門高校の人的ネットワークの構築とともに、生徒や教員が新たな産業構造を理解する機会を創出。

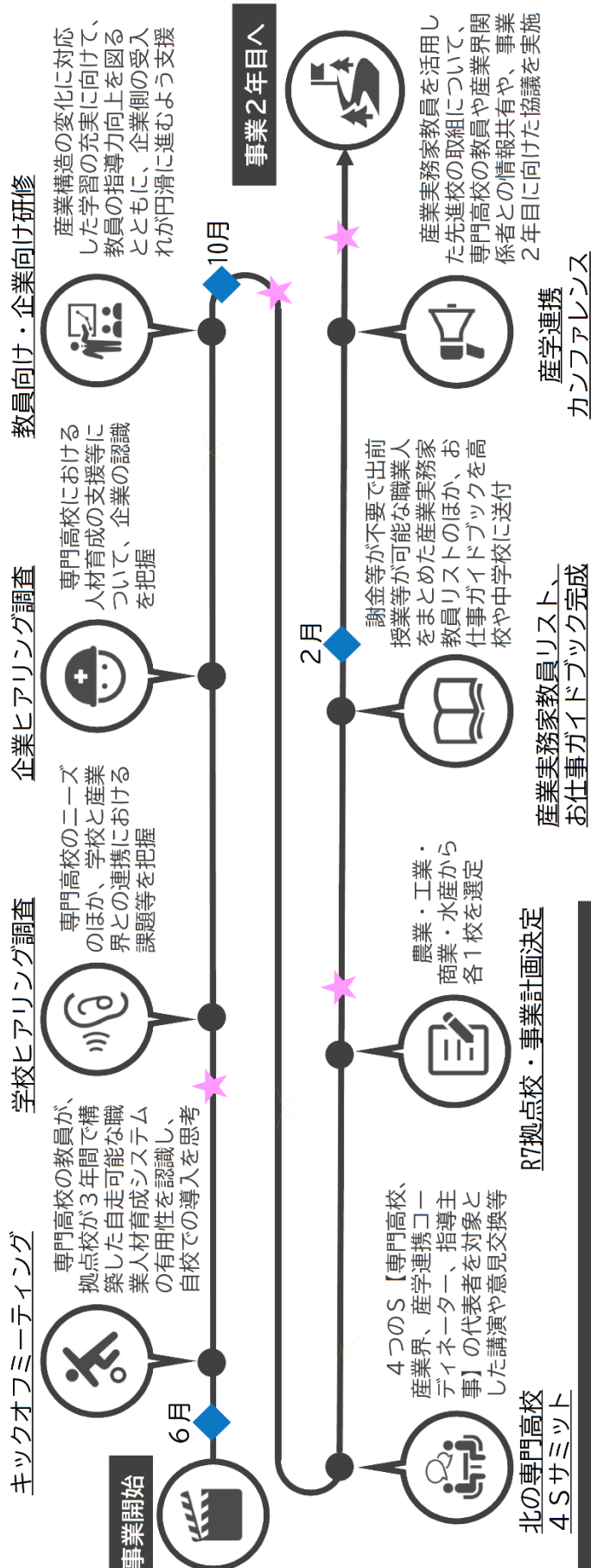


令和6年度の取組とスケジュール

◆：ONE-TEAMコミッティ

★：ONE-TEAMニュース

※産業教育関係者に向けた通信



半導体に関する出前授業

工業高校を中心とした専門高校に、大学等の教員を産業実務家教員として招き、生徒や教員が先端技術を学ぶなど、産業構造の変化に対応。

工業 × 商業 × 農業

どさんこプラザでの販売会

農業高校や商業高校、水産高校等の生徒が企業と連携して開発した商品を、北海道のアナテナショップで販売するなど、6次産業を体験。

農業 × 水産 × 商業

洋上風力発電セミナー等

洋上風力発電に関する職業人を産業実務家教員として招き、生徒や教員を対象としたセミナーや出前授業のほか、バスツアー等を実施。

工業 × 水産

建設DX理解促進セミナー等

DXや働き方改革の取組について、建設業協会の関係者等を産業実務家教員として招き、生徒や教員を対象としたセミナーや意見交換を実施。

工業 × 水産 × 農業

【図3】令和6年度事業概要図（2ページ目／全2ページ）

3 事業内容

(1) イベント

ア キックオフミーティング【令和6年7月8日（月）開催】

専門高校の教員が本事業について理解を深めることを目的に、会場参集・オンラインのハイブリット方式で開催した。全道から専門高校の代表教員86名が参加し、本事業の説明や講話に加え、今後の産業界とのサステナブルな連携の在り方について協議を行った。

◆発表「マイスター・ハイスクール事業の研究成果について」

▶ 北海道静内農業高等学校教頭 工藤 淳 氏

【主な内容】

マイスター・ハイスクール事業における自校の実践事例や、今年度から取り組んでいる自走化した職業人材育成システムの仕組みなど



◆基調講話「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」

▶ 北海道農産協会てん菜部長（前マイスター・ハイスクール CEO） 桑名 真人 氏

【主な内容】

静内農業高校の事例を参考に、産業界との連携を進める上でのポイント、信頼関係の重要性や持続的に関わるプラットフォーム形成など



発表する桑名氏（左）と会場の様子

◆協議「自校における持続可能な産業界との連携について」

【主な内容】

参加者が 11 のグループに分かれ、産業界との望ましい連携の在り方について、生徒や地域など、それぞれの視点から「理想の姿」を設定し、その実現に向け「自分たちに何ができるか」、「何が必要か」をテーマに、実践できる取組について思考した。

学科の垣根を越え、異なる学科の先生方で協議を行ったことで、参加者からは「新たな視点や気づきが多くあった。」、「もっと協議の時間がほしかった。」といった声が多く、産学連携について考える貴重な機会となった。



協議の様子（左）と付箋に書かれた多くの意見

国の「マイスター・ハイスクール事業」(R3～R5)において、静内農業高校が構築した職業人材育成システムを、道内の専門高校に広く横展開する新規事業について理解を深めるミーティングを開催します。

道内

農業 工業 商業 水産 家庭 看護 福祉

の専門高校代表者が一同に介する



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 キックオフミーティング



令和6年(2024年)

7月8日(月)

13:30～16:15

会場：第二水産ビル 8A会議室

(札幌市中央区北3条西7丁目1)

※Zoomによるオンライン参加も可

内 容

- ・発 表 「マイスター・ハイスクール事業※の研究成果について」
北海道静内農業高等学校教頭 工藤 淳 氏
- ・説 明 「本事業の概要等について」北海道教育庁学校教育課キャリア教育指導係
- ・講 話 「専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方について」
(一社)北海道農産協会てん菜部長(前マイスター・ハイスクールCEO) 桑名 真人 氏
- ・協 議 「自校における持続可能な産業界との連携について」
- ・まとめ 「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」産学連携コーディネーター 月館 海斗 氏

※マイスター・ハイスクール事業とは？

産業界等と一体となった教育課程開発等の先進的取組を行う都道府県等・専門高校が中核となって牽引する産業界等と連携した人材育成の広域ネットワークの構築や、産業界等との連携に課題のある地域の連携体制強化の取組を実施する事業

参加対象

- 1 道内の専門高校で職業学科を担当する教諭等※道立高校については、1つの大学科につき、1名分の旅費を措置します。
- 2 専門高校を所管する教育局の指導主事1名
- 3 その他、産業教育に関心のある教育関係者

申込方法・申込〆切

各教育局からの通知に従い申し込んでください。

【主催】北海道教育庁学校教育課キャリア教育指導係

お問合せ先 TEL 011-204-5705

【協力】北海道静内農業高等学校

静内農業高校の
取組はこちらの
Webページから



北海道教育委員会



静内農業高校



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」における取組の方向性を皆さんで共有しませんか。



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

【図4】チラシ(キックオフミーティング)

イ 産学連携シンポジウム〔令和6年11月18日（月）開催〕

本事業における取組が、専門高校と産業界の持続可能な連携に資するよう、参加者が事業内容や連携の意義等について共有することを目的に開催した。企業・学校関係者など、会場参集・オンライン参加を合わせて137名が参加し、持続可能な産学連携の在り方及び今後の北海道における職業人材育成について考える貴重な機会となった。

◆発表①「産業界と連携した学びで私が得たもの」

▶ 静内農業高校生産科学科3年 三浦 聖晴 さん

【主な内容】

- ・中央競馬会等と連携した馬の裂蹄治療についての学習や、軽種馬牧場におけるデュアルシステム
- ・産業界と連携した実践的な学びを通して「地元の牧場へ就職したい」という目標が生まれたこと



発表する三浦さん

▶ 札幌工業高校土木科3年 飯島 道大 さん

【主な内容】

- ・新幹線のトンネル工事の視察や、地域の広場の整備（通路の整備、ベンチの製作）などに関わる産業界と連携したプロジェクト学習
- ・将来は、「国や地域に貢献する技術者になりたい」という目標をもつようになった理由



発表する飯島さん

▶ 旭川商業高校流通ビジネス科3年 佐藤 藍 さん

【主な内容】

- ・ノーステック財団や地元企業の支援を得て、旭川農業高校と連携した「Project A」の取組
- ・産業界と連携した学習を通して、商品開発や物流についてなど、日常の授業だけでは学習することができない多くの学びがあったこと



発表する佐藤さん

◆発表②「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」

▶ 国分北海道株式会社人事総務部長 萩庭 寿人 氏

【主な内容】

- ・専門高校との連携に至ったきっかけ
- ・マイスター・ハイスクール事業における静内農業高校での取組
- ・水産高校との商品開発や農業高校との連携事業などの実践事例
- ・高校との関わりが企業側にもたらす効果
- ・取組の背景にある自社の理念や、北海道を元気にしたいという地域産業の活性化に向けた思い



発表する萩庭氏

◆パネルディスカッション「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」

▶ 【司会】

・北海道教育庁学校教育局高校教育課 産学連携コーディネーター 月館 海斗

▶ 【パネリスト】

- | | |
|---------------------------|----------|
| ・ 静内農業高校生産科学科 3 年 | 三浦 聖晴 さん |
| ・ 札幌工業高校土木科 3 年 | 飯島 道大 さん |
| ・ 旭川商業高校流通ビジネス科 3 年 | 佐藤 藍 さん |
| ・ 国分北海道株式会社人事総務部長 | 萩庭 寿人 氏 |
| ・ 北海道経済連合会常務理事 | 百瀬 康弘 氏 |
| ・ 株式会社砂子組企画営業部部長 | 真坂 紀至 氏 |
| ・ 国分北海道株式会社道央支社道央支店営業業務担当 | 高橋 柚珠乃 氏 |
| (令和 5 年度静内農業高校卒業) | |

【主な意見】

<産業界>

- ・ 産業界全体を考えて、人材育成につながる産学連携をするべき。
- ・ 行政、学校、企業の役割分担をして ONE-TEAM で取り組むことが重要。

<高校生>

- ・ 早いうちから産業界について知る機会がほしい。
- ・ 企業の方と初対面では質問もしづらいので、長期的な関わりの機会がほしい。



パネルディスカッションの様子



会場の様子

◆参加者の主な感想

- ・ 学科間や専門高校間の連携を積極的に行っていきたいと感じた。(学校関係者)
- ・ 業界全体で産学連携に取り組む必要性を感じた。(企業関係者)
- ・ 高校生の発表や活動のレベルの高さに驚かされた。(企業関係者)
- ・ 生徒と大人がフラットに意見を言い合って、みんなで未来を考える素敵な場であると感じた。(その他)

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」が、専門高校と産業界のサステナブルな連携に資するよう、事業の内容や連携の意義等について、情報共有する目的で実施します。



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 産学連携シンポジウム

11月18日(月)
13:30～16:30

会場：第二水産ビル 4S会議室
(札幌市中央区北3条西7丁目1)
※Zoomによるオンライン参加も可

内 容

- ・説明「本事業の概要等について」
北海道教育庁学校教育課キャリア教育指導係
- ・発表「産業界と連携した学びで私が得たもの」
北海道静内農業高等学校生産科学科3年 三浦 聖晴
北海道札幌工業高等学校土木科3年 飯島 道大
北海道旭川商業高等学校流通ビジネス科3年 佐藤 藍
- 「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」
国分北海道株式会社人事総務部長 萩庭 寿人 氏
- ・パネルディスカッション
「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」



←「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の取組はこちらのWebページから

※マイスター・ハイスクール普及促進事業とは？

産業界等と専門高校の連携体制強化による産業人材育成のための教育の充実を推進することを目的とした文部科学省の事業。

司 会	北海道教育庁学校教育課 産学連携コーディネーター	月館 海斗
パネリスト	国分北海道株式会社人事総務部長	萩庭 寿人 氏
	北海道経済連合会常務理事	百瀬 康弘 氏
	株式会社砂子組企画営業部部長	真坂 紀至 氏
	国分北海道株式会社道央支店 道央支店営業業務担当	高橋柚珠乃 氏 (R6年3月静内農業高校卒業)
事例発表生徒3名		

- ・まとめ 北海道教育庁学校教育課
産学連携コーディネーター 月館 海斗

参加対象

- 1 道内企業・経済団体等の関係者
- 2 教育関係者のうち、参加を希望する者



北海道の次代を担う産業人材の育成に向けて専門高校との連携を模索してみませんか。

申込方法・申込〆切

右の二次元コードを読み取り、Googleフォームにて申込みを行ってください。
【11月11日(月)〆切】



お申込はこちら↓

【主催】北海道教育庁学校教育課キャリア教育指導係
【協力】北海道静内農業高等学校



【図5】チラシ（産学連携シンポジウム）

ウ 高校生チャレンジ in どさんこプラザ [令和6年12月13日(金)、14日(土)開催]

農業・商業・水産科の生徒が、学校や学科の垣根を越えて連携し、企業と協働で開発した商品を、JR 札幌駅構内にある北海道のアンテナショップ「どさんこプラザ札幌店」で販売し、6次産業化を学ぶ機会を創出した。

◆事前情報交換会

12月2日(月)には参加校による事前情報交換会を行い、商品提供校の生徒が商品のPRポイントなどを説明し、どの商品についても販売協力校の生徒がお客様にしっかりと説明できるよう情報交換を行ったほか、苫前商業高校の生徒が、商品提供校からの説明を参考に、チラシやポスター等を作成した。

【商品提供校】

函館水産、富良野緑峰、下川商業、留萌、更別農業、根室

【販売協力校】

苫前商業、富良野緑峰、留萌、更別農業、根室

◆販売会当日

商品の陳列やPR方法についてアイディアを出し合い、全ての商品を完売した。



陳列された商品



販売会に参加した生徒たち

◆事後情報交換会

販売会の2日後、12月16日(月)に事後情報交換会を行った。今回の販売会を振り返り、販売会に参加した生徒からは、「事前にもっと他校の商品を研究すべきだった。」という反省や、「商品のレシピなどを書いたチラシを作成するとよかった。」などの改善案が出された。

また、商品を提供した学校からは、「昨年より価格が上がった商品を、お客様はどのように受け止めていたか。」など、当日のお客様の反応について、販売会に参加した生徒に対して質問するなど、積極的な交流が見られた。

◆来場者の声

当日は多くの方が来場し、生徒に向けた感想や応援の声が多数寄せられた。

【感想等の一部】

- ・ 積極的で元気があって好感がもてた。商品説明もしっかりしてくれた。
- ・ 緊張しながらも頑張って声をかけてくれて、嬉しかった。
- ・ 高校生の独創的な商品をどんどん増やしてほしい。
- ・ 是非、今後もこのような企画を続けてほしい。

高校生チャレンジ in どさんこプラザ

令和6年12月13日(金)～14日(土)

札幌店



1 事前準備、事前情報交換会（12月2日）

各校の商品紹介をもとに、苫前商業高校がチラシやポスター等を作成しました。事前情報交換会では、商品提供校が商品のPRポイントなどを説明し、販売協力校の皆さんがどの商品についてもお客様にしっかりと説明できるよう、情報交換を行いました。

【商品提供校】

函館水産、富良野緑峰、下川商業、留萌、更別農業、根室

【販売協力校】

苫前商業、富良野緑峰、留萌、更別農業、根室



2 販売会の様子（12月13日、14日）

商品の陳列やPR方法についてアイディアを出し合い、全ての商品を完売しました。



【開店前に商品を陳列】



【販売頑張ります！】



【教育長も応援に来ました】



【販売する生徒】



【商品をPRする生徒】



【完売しました！】

3 事後情報交換会（12月16日）

販売会の2日後に、Zoomで事後情報交換会を行いました。今回の販売会を振り返り、販売に参加した学校の生徒は、「事前にもっと他校の商品を研究すべきだった」という反省や、「商品のレシピなどを書いたチラシを作成するとよかった」などの改善案が出されました。

また、商品を提供した学校からは、「昨年より価格が上がった商品を、お客様はどのように受け止めていたか」など、自校では知ることのできないお客様の反応について聞いていました。

4 来場者の声

来場者からは、「積極的で元気があって好感がもてた。商品説明もしっかりしていただいた。」「緊張しながらも頑張って声をかけてくれて、嬉しかった。」といった生徒に対する感想や、「高校生の独創的な商品をどんどん増やしてほしい。」「是非今後もこのような企画を続けていただきたい。」などの応援の声が寄せられました。

【図6】まとめ（高校生チャレンジ in どさんこプラザ）

エ 4 Sサミット [令和7年1月24日(金)開催]

北海道の産業教育に携わる4つのS（専門高校、産業界、産学連携コーディネーター、指導主事）の代表者が集合し、産学連携に資する講演や意見交換等を通じて、それぞれの取組状況や課題等を把握し、持続可能な産学連携の実現に向けて目線合わせを行った。



【図7】4 Sサミットに参加した4つのS

◆基調講演「北海道に根ざした企業が考える人材育成～未来の北海道産業を考える～」

- ▶ 株式会社セイコーマート商品本部取締役本部長 辻道 雅彦 氏

【主な内容】

- ・ 地域との連携事例として、自治体との協定締結や、地域からの要請に応えた出店事例
- ・ 地域産品を活用した商品開発
- ・ 高校生対象の各種コンテストの開催や、次世代の人材育成に関わる各種取組の紹介



講師を務めた辻道氏

◆協議 [進行：ONE-TEAM コミッティ委員（北海道産業教育審議会会長） 岡部 善平 氏]

- ▶ 協議題1「縦のつながり～企業や中学校とのサステナブルな連携の実現に向けて」

【参加者からの主な意見】

- ・ 学校と企業の連携では、目的を共有して Win-Win の関係を構築することが大切。
- ・ 学校と企業で出来ることは異なるので、互いの得意分野を生かし、持続可能なキャリア教育を行うことが重要。

- ▶ 協議題2「横のつながり～職業学科の垣根を越えた専門高校 ONE-TEAM の実現に向けて」

【参加者からの主な意見】

- ・ 学科間の連携は、時間割や行事の調整など難しい面もあるため、第三者の調整役が入ることも一つの方法である。
- ・ 専門高校に入学すると、進路の選択肢が狭くなるイメージがある。学科間の連携を推進することで、より広い学びにつながるのではないか。



協議の様子



発言する専門高校の校長

◆まとめ

- ▶ ONE-TEAM コミッティ委員（北海道産業教育審議会会長） 岡部 善平 氏

【主な内容】

- ・ 学校と企業、中学校等との縦の連携において、まずは互いの目的を共有する場を設定することが大切。
- ・ 中高・産学・学科間の連携を単発の取組にせず、持続可能な形とすることが重要。

マイスター・ハイスクール普及促進事業
「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

4Sサミット



北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトにおける取組が、専門高校と産業界との持続可能な連携に資するよう、次年度に向けた共通認識を図るイベントです。

講演



講演のみ、
Zoomによる
一般参加が
可能です

▼演題

「北海道に根ざした企業が考える人材育成
～未来の北海道産業を考える～」

▼講師

株式会社セイコーマート商品本部取締役役本部長
辻 道 雅 彦 氏

一般参加対象

▼教育・産業界関係者で参加を希望する者

申込方法

右の2次元コードから専用
フォームにアクセスし、必
要な情報を入力してくださ
い。（定員300台）



申込Webページ

2025
1/24 金

【開会】 9:30

【講演】

9:35～10:35

【意見交換・協議等】

10:45～12:00

専門高校と産業界のサ
ステナブルな連携の構築
を目的とした「北の専門
高校ONE-TEAMプロジェク
ト」の情報はこちらから



道教委Webページ

【主催】北海道教育庁学校教育局高校教育課
（お問合せ先：TEL 011-204-5705）



【図8】チラシ（4Sサミット）

オ 産学連携カンファレンス〔令和7年2月20日（木）〕

産業界と連携している専門高校の取組やその成果を、本道の産業教育の関係者が共有することにより、専門高校における持続可能な職業人材育成システムの構築を促進することを目的に開催した。生徒20名、教員85名、企業関係者68名の合わせて173名が参加し、産学連携の在り方について理解を深めた。

◆発表①「マイスター・ハイスクール事業における連携と成果について」

▶ 北海道厚岸翔洋高等学校教頭 長谷川 智人 氏

【主な内容】

- ・多くの生徒に、「地域に貢献したい」という意識や「課題解決に向け多面的に考え行動することが多くなった」という実感があり、さらに自己肯定感の向上を感じるなど、意識・行動に変容が見られたこと
- ・産学連携による地域課題の解決に向け、3年間で系統的に取り組み、探究活動の充実が図られたこと
- ・自走化に向けた学校設定科目やコミュニティ・スクールの導入等の取組



会場の様子

◆発表②「地元放送局として専門高校を応援する理由～水産高校・農業高校ウィークをとおして～」

▶ 札幌テレビ放送株式会社 大阪 しの 氏

【主な内容】

- ・「地域貢献をとおして、北海道になくてはならない企業になる」という自社の思い
- ・専門高校と連携して取り組んだ企画に対する視聴者からの多くの応援の声と、「もっと応援したい!」という思いから始めた農業高校や水産高校との企画



発表を務めた大阪氏

◆協議

▶ 協議題1-A「地域の担い手を育成する専門高校の役割」（教員・企業関係者）



教員・企業関係者による協議の様子

▶ 協議題1-B「産業界と連携した学びで得られたもの」(生徒)



学科の垣根を越えた生徒による協議の様子

▶ 協議題2「今後取り組んでみたい産学連携のかたち」(教員・企業関係者・生徒)

各グループでは、生徒が協議1で話し合った内容について発表した後、生徒と大人が交わって、今後の産学連携のあるべき形や、どのような連携ができるかなどについて活発な意見交換を行った。



協議1の内容を発表する生徒の様子



生徒を交えた活発な意見交換の様子

◆参加者の感想(一部)

【企業関係者・経済団体関係者】

- ・商品開発から、販売・プロモーションまでの一連の流れを連携して行い、その利益を使ってさらに大きな挑戦をする3か年プロジェクトのような長期的な取組をしたいと感じた。

【教員】

- ・企業の方と教員や生徒が話し合う機会が多くないので、よい経験になった。
- ・まずは積極的に企業の方や経済団体の方と連絡を取ってみたいと思った。
- ・他の専門高校や企業との共同プロジェクトを立ち上げるのも面白いと感じた。

【生徒】

- ・地域との関わりや高校生同士のコラボレーションなどを、もっとやるべきと感じた。
- ・今後も様々なことに挑戦して、疑問や課題を見い出していきたい。



Contents 1

発表①「マイスター・ハイスクール事業における連携と成果について」

北海道厚岸翔洋高等学校教頭 長谷川 智人 氏

発表②「地元放送局として専門高校を応援する理由～水産高校・農業高校ウィークをとおして」

札幌テレビ放送株式会社事業局通販事業部 大阪 しの 氏

産学連携 カンファレンス

About Conference

産業界と連携している専門高校の取組や成果を本道産業教育の関係者が共有することにより、道内の各専門高校における持続可能な職業人材育成システムの構築を促進する目的で実施します。

Schedule

2月20日(木)
13:30～16:30

Meeting Place

第二水産ビル
8A会議室
(札幌市中央区北3条西7丁目1)

【参加対象】

- ★ 道内の専門高校で職業学科を担当する教諭等
- ★ 道内企業・経済団体等の関係者
- ★ 道内の専門高校で学ぶ代表生徒
- ★ その他、産業教育に関心のある教育関係者

Contents 2

協議1-A 「地域の担い手を育成する専門高校の役割」
(教員・企業関係者等)

協議1-B 「産業界と連携した学びで得られたもの」
(生徒)

協議2 「今後取り組んでみたい産学連携のかたち」
(生徒・教員・企業関係者等)

※生徒達による協議1-Bの内容を報告後、参加者による協議を行います。

下の二次元コードを読み取り、Googleフォームにて申込みを行ってください。

【1月31日(金)〆切】

学校用



事業所等用



【主催】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係



【図9】チラシ（産学連携カンファレンス）

(2) 刊行物

ア ONE-TEAM ニュース

本事業の取組や専門高校における産学連携の好事例のほか、各種イベントやセミナー等の情報を掲載し、専門高校や産業界等に広く発信した。(年6回発行)

産業界関係者からは「専門高校の取組を知ることができるので発行が楽しみ」との声が多数あった。

イ 職業学科理解推進ガイド

中学生やその保護者、中学校教員等の専門高校への理解を深めることを目的に、職業学科の学習内容や進路先等を小学科などのカテゴリー別に紹介するガイドブックを制作し、全道の中学校に配付するとともに、道教委のウェブページに掲載し、経済団体等に広く周知した。



【図 10】中学生の進路選択における相関図（イメージ）

ウ おしごとガイドブック

専門高校が取り組んでいる「縦」と「横」のつながりにスポットを当てたガイドブックを制作し、道内の中学校1、2年生（約76,500名）及び高校1、2年生（約46,000名）に配付した。

【ガイドブックの主な内容】

- ▶ 産学連携コーディネーターから中高生へのメッセージ
- ▶ 先端技術を活用した産業分野で活躍する専門高校卒業生の仕事内容や、やりがい

<掲載分野>

スマート農業、スマート水産業、半導体関連産業、観光産業、
洋上風力発電、建設DX、医療、福祉、ファッション

- ▶ 専門高校と地域の企業が連携した取組
- ▶ 学科の垣根を越えた専門高校同士が連携した取組
- ▶ 中学校の技術科と連携した専門高校の取組
- ▶ (中学生版のみ) 産学連携コーディネーターと専門高校生3名の対談
- ▶ (高校生版のみ) 北海道の未来と地域を支える人材育成の取組

エ 産業実務家教員リスト

専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係性をベースに、謝金等が不要で出前授業等が可能な職業人をまとめた「産業実務家教員リスト」を作成して各専門高校に配付し、専門高校における持続可能な人的・物的資源の活用を促進した。

令和6年度から2か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や、各校の好事例、専門高校と産業界との持続可能な連携につながる情報を提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の事業概要

本道においては、次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が大きく変化しています。こうした中、職業学科を設置する高等学校では、産業構造や仕事内容の絶え間ない変化に即応した職業人材の育成が急務となっていることから、マイスター・ハイスクール事業(R3~5年度)において**静内農業高校が構築した職業人材育成システムを、道内の専門高校に広く展開**するとともに、**産業界と専門高校の持続可能な連携の充実を図る**ことを目的として実施する事業です。

詳しくはこちらのWebページから



キックオフミーティングを開催しました。

令和6年7月8日(月)に、本事業について理解を深める「キックオフミーティング」を、会場参集・オンラインのハイブリット方式で開催しました。当日は全道から職業学科を担当する教諭など86名が参加し、本事業の説明や講話、今後の産業界とのサステナブルな連携の在り方について、研究協議が行われました。

○発表「マイスター・ハイスクール事業の研究成果について」

(静内農業高校 工藤 淳 教頭)
静内農業高校における実践事例や、今年度より取り組んでいる自走化した職業人材育成システムの仕組みなどについて発表していただきました。

○基調講話「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について」

(北海道農産協会でん菜部長 桑名 真人 氏)
産業界との連携を進める上でのポイントについて、静内農業高校の事例をもとにした説明があり、信頼関係の重要性や、産業界と持続的に関わるプラットフォーム形成についてのお話をいただきました。

静内農業高校の詳細な取組はこちらのWebページから



説明する静内農業高校 工藤教頭



講演する桑名氏(左)と参加者(右)



○協議「本校における持続可能な産業界との連携について」(産学連携コーディネーター 月館 海斗 氏)

会場と、オンライン併せて全11グループで研究協議を行いました。学校と産業界との望ましい連携の在り方について、「生徒」「地域」などのそれぞれの視点から、「理想の姿」を設定し、その実現に向け、「自分たちに何ができるか」、「何が必要か」をテーマに、今すぐ実践できる取組について考えました。学科の垣根を越え、異なる学科の先生方で協議を行ったことで、「新たな視点や気づきが多くあった」、「もっと協議の時間がほしい」との声も多く、充実した時間となりました。



協議のファシリテーターを務めた月館氏



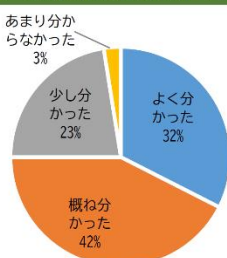
グループワークに取り組む参加者



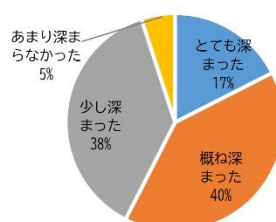
グループワークの内容をまとめた様子

参加者の声(アンケート調査の結果より)

Q 本事業の概要が分かりましたか



Q 専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方について、今後のイメージは深まりましたか



参加した感想、意見、要望等

- 様々な視点からのお話で、気づきが多くあった。
- 職業学科の学習内容を、産業界に一目置かれる状況にすることで、職業高校の存在価値を高められると感じた。
- 地元企業とのつながりを密にできる取組が必要。
- 学校それぞれの取組にならず、各校が連携できるような体制や仕組みづくりが必要。

など



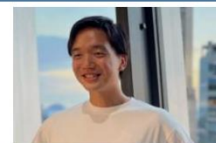
産業界と学校との連携を支援する「産学連携コーディネーター」

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」において、学校と産業界との連携を支援する「産学連携コーディネーター」を担当する月館海斗氏のコメントや、キックオフミーティングの感想、コーディネーターの役割について紹介します。

この度、本事業の産学連携コーディネーターを拝命いたしました株式会社すみかの月館です。私自身、教員経験を通して、学校と社会の連携は非常に重要だと感じた一方で、仕事量の多さから連携が困難であることも感じました。

キックオフミーティングでは、本事業を進めていくに当たって、まずは皆さんの想いを共有したく発散形式の協議を行いました。この協議にて、各職業学科の先生方から地域を巻き込んだスポーツイベント（文化祭）の開催や、地域とつながるために先生が率先して外部イベントへ参加することなど具体的なアイデアが多数出されました。

今後は、コーディネーターとして、先生や学校だけでは実現できなかった教育機会の充実を実現できるようサポートしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



月館 海斗 氏

主な経歴等

- ・株式会社すみか代表取締役（立命館慶祥中学校教員を経て、会社設立）
- ・厚岸翔洋高校マイスター・ハイスchool事業伴走者
- ・札幌市「市立高校コンシェルジュ」任命
- ・その他教育現場での教育支援プログラムを実施

※産学連携コーディネーターの主な役割

①人的ネットワークの構築

職業学科の指導主事と連携し、学科の特性に応じて専門高校と、産業界を人的につなげる

②産業実務家教員リストの作成

謝金等が不要で、出前授業等が可能な職業人をデータベース化し、専門高校と産業界のつながりを後押しする

③産業構造の変化に対応

先端技術に従事する技術者を紹介したお仕事ガイドブックを制作



好事例の紹介

学校と産業界の連携において、先進的な事例や特色ある取組を紹介します。是非各校で自走可能な連携の取組を考える上での参考にしてください。今回は**室蘭工業高校**における、**地域の建設業協会と連携した人材育成**についてです。

【室蘭工業高校】建設業協会との緊密な連携

- ・3つの建設業協会と企業実習に関する連携協定を締結（R6.2月）
- ・道内の工業高校としては初となる革新的な取組
※年間15日程度の企業実習を想定
※R8の本格実施に向けて、R6より施行実施
- ・育成する人材像を具体化して共有するほか、**企業実習プログラム**を共同で開発



教員向け建設 DX 理解促進セミナーの実施について（案内）

高等学校において進路指導を担当する教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図るため、建設DX理解促進セミナーを開催します。

1 日時

令和6年9月26日（木）14:00～15:30
※Zoomによるオンライン

2 内容

- 講演「DX化に伴い変革が進む建設業における業務内容と働き方」
講師 荒井建設株式会社 取締役土木技術部長 岡崎 竜志 氏
- 説明「建設業における新しい職域『建設ディレクター』について」
説明者 一般社団法人建設ディレクター協会 藤田 歩実 氏
- 説明「建設ディレクターの育成について」
説明者 ヤマグチ株式会社土木部工事管理室
ビジネスイノベーション推進課長 馬場 洋介 氏
- 体験談「建設ディレクターとしてのやりがい」
発表者 ヤマグチ株式会社土木部工事管理室 長坪 和 氏
原田 杏瑞 氏
- 事例発表「地元建設業協会と連携した企業実習の取組」
発表者 北海道室蘭工業高等学校環境土木科長 鈴木 圭吾 教諭

3 申込方法・※切

各教育局からの通知に従い申し込んでください。



企業と連携した人材育成の在り方の参考とするほか、新たな産業や働き方を学ぶ機会として、工業科以外の先生にも広くお勧めします！



令和6～7年度の2か年実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」についての取組や、各校の好事例、専門高校と産業界との持続可能な連携につながる情報を提供します。

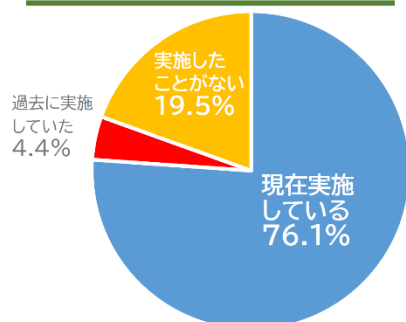


学校ヒアリング調査の結果について

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」を、学校と産業界との連携促進に資する取組とするため、道内の職業学科（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉）を設置する道立高校を対象に、連携についての現状や考え方について「学校ヒアリング調査」を実施しました。その結果の一部を報告します。

- 調査対象：職業学科を設置する道立高校（小学科ごとに回答）
- 実施期間：令和6年7月8日～令和6年7月29日
- 実施方法：Google フォームによる回答
- 回答数：159件（農業34、工業62、商業49、水産9、家庭2、看護2、福祉1）

1 産業界と連携した教育活動を実施していますか。



2 連携している（していた）企業又は大学・団体等と、主な内容を教えてください。

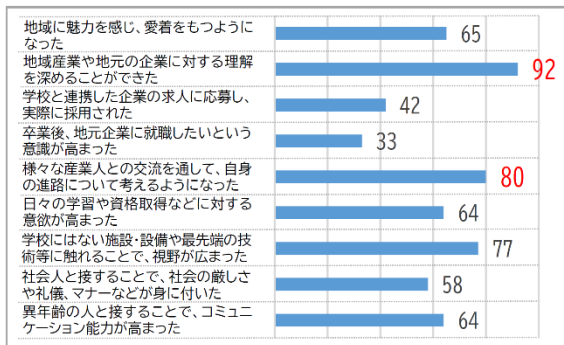
※回答の一部を抜粋

- 【農業科】小売・物流業者と連携した**地域の主要農産物の販売促進**に向けた取組
- 【工業科】開発局、地元建設業協会と連携した**施工管理能力の育成**を目指した取組
- 【商業科】食品製造業者と連携した**地元の特産物を使用した弁当開発・販売**の取組
- 【水産科】地元漁協と連携した**対象魚種の販路拡大**を目指した**缶詰の製品化**の取組

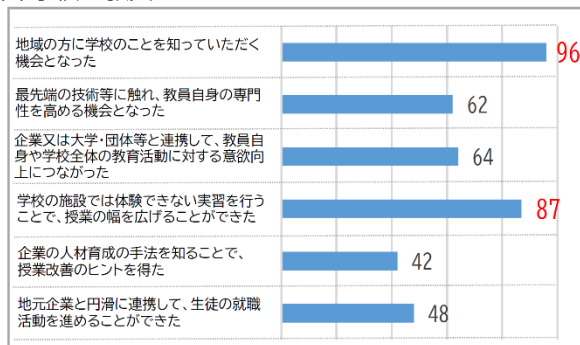
連携の内容については、各学科の**専門性を生かした取組**や、**学びを深める取組**が多いことが分かりました。

3 産業界と連携した教育活動を実施して、生徒や教員、学校にとってどのような成果や変容がありましたか。（複数回答可）

(1) 生徒



(2) 学校・教員



連携した教育活動を行っている学校では、グラフのとおり、生徒、学校・教員ともに多くの成果を感じていることが分かりました。産業界や地域との連携を通じた学びによって、生徒は地域に対する理解が深まることや、進路について考えるようになること、学校・教員は、学校に対する理解が深まることや、授業の幅が広がることなどに効果を実感していました。

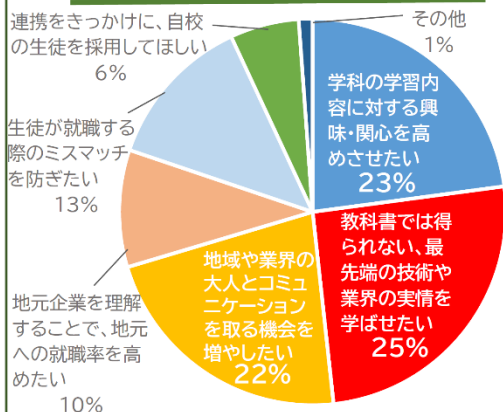


4 今後、連携してみたい産業界の分野・企業・団体等について教えてください。

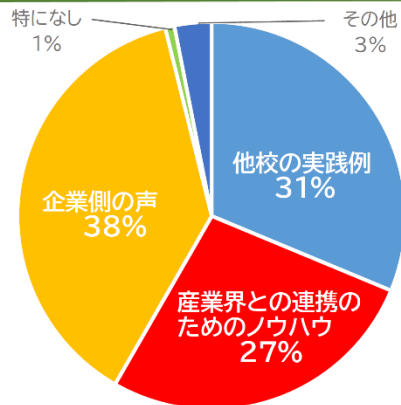
- ・最先端ロボットやドローンによる画像認識処理技術
- ・大学病院等で活躍している医療スタッフによる授業
- ・地元企業とコラボしたアンテナショップ経営
- ・学校産の農産物を用いた、企業・自治体と連携した商品開発
- ・半導体関係の技術者による技術指導
- ・デザイン系の業界とのパッケージデザイン
- ・道総研と連携した水産に関する新商品の開発
- ・大学との連携 など

先端技術に関わることや、商品開発について、連携して取り組みたいという意見が多くありました。また、企業にとどまらず、大学や研究機関と連携したいという意見もありました。

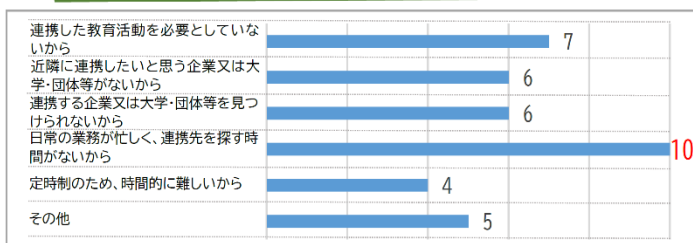
5 産業界と連携した教育活動を行う場合、連携先に期待することは何ですか。（複数回答可）



6 産業界と連携した教育活動を行うに当たって、あなたが知りたいことは何ですか。（複数回答可）



7 産業界と連携したことがない学校において、連携した教育活動を実施していない理由を教えてください。（複数回答可）



多くの学校で産業界と連携した取組を実施している一方、連携したことがない学校が約20%あり、左図のような要因が見えてきました。道教委では、学校と企業が連携した好事例の紹介や、産業実務家教員リストの作成等を通して、この課題解決につながるよう取り組みます。



本調査に御協力いただき、ありがとうございました。



産学連携シンポジウムの開催について

専門高校と産業界の持続可能な連携体制の構築に向けて、企業や経済団体の関係者、教育関係者を対象に、本プロジェクトの内容や専門高校と産業界における連携の意義等を共有するシンポジウムを開催します。

1 日時

令和6年11月18日(月)13:30~16:30
※Zoomによるオンライン参加も可

2 運営会場

第二水産ビル 4S会議室(住所:札幌市中央区北3条西7丁目1)

3 内容

(1) 説明「本事業の概要等について」

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の事業概要について、説明します。

(2) 発表①「産業界と連携した学びで私が得たもの」

専門高校で学が生徒が、授業での学びや、そこから得た気付き、進路目標等について発表します。

(3) 発表②「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」

専門高校と連携を行っている企業の実践事例と、連携によって生まれたメリット等について紹介します。

(4) パネルディスカッション「専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方について」

産業界、専門高校の在校生・卒業生の代表者が、高校と産業界のよりよい連携の在り方について、パネルディスカッションを行います。

4 申込み方法

参加申込みは、右の二次元コードを読み取り、Google フォームにて行ってください。
(申込み締切:令和6年(2024年)11月11日(月))



高校と産業界における持続可能な連携のヒントが得られる絶好の機会です。
多くの御参加を、お待ちしております！

※詳しくは、高校教育課ウェブページに掲載されているチラシ、または、各企業や団体、学校へ配付されている要項等を御確認ください。



【図 14】 ONE-TEAM ニュース第2号（2 ページ目／全2 ページ）



令和6年度から2か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や、各校の好事例、専門高校と産業界との持続可能な連携につながる情報を提供します。



『産学連携シンポジウム』を開催しました

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」における取組が、専門高校と産業界の持続可能な連携に資するよう、事業の内容や連携の意義等について情報を共有することを目的として、11月18日(月)に『産学連携シンポジウム』を開催しました。企業・学校関係者など、会場参集・オンライン参加を合わせて137名に参加いただき、持続可能な産学連携の在り方及び今後の北海道における職業人材育成について考える機会となりました。今回は、発表いただいた主な内容や、パネルディスカッションにおいて発言された意見等について紹介します。

発表①「産業界と連携した学びで私が出たもの」

- 静内農業高校 生産科学科3年 三浦 聖晴 さん
 - ・中央競馬会・高専と連携して取り組んだ馬の裂蹄治療についての学習や、軽種馬牧場におけるデュアルシステム^(注)による実践的な学習について
 - ・産業界と連携した実践的な学びを通して「地元の牧場へ就職したい」という進路目標が生まれたことについて
 - ・「専門高校の学びは地域の関係機関や産業界との連携が重要である」との実体験を踏まえた意見

(注)デュアルシステムについては下記 URL 内、令和5年度版リーフレット(道教委作成)参照

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/career.html>



静内農業高校 三浦さん

- 札幌工業高校 土木科3年 飯島 道大 さん
 - ・企業の協力による新幹線のトンネル工事現場の視察研修や、先端技術に関わる実技講座など、3年間の系統的な専門性の高い学習について
 - ・地域の広場の整備に関わる産業界と連携したプロジェクト学習(通路の整備、ベンチの製作)などの実践的な学習について
 - ・学習を通して、将来は、「国や地域に貢献する技術者になりたい」という目標を持つようになった理由について



札幌工業高校 飯島さん

- 旭川商業高校 流通ビジネス科3年 佐藤 藍 さん
 - ・ノーステック財団や地元企業の支援を得て、旭川商業高校と取り組んだ「Project A」での学習について
 - ・産業界と連携した学習を通して、商品開発や物流についてなど、日常の授業だけでは学習することができない多くの学びがあったことについて
 - ・長期間に渡る産学連携が、多くの充実した学びにつながったことや、異校種間連携による6次産業化の学びの重要性について



旭川商業高校 佐藤さん



国分北海道株式会社 萩庭氏による発表

発表②「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」

- 国分北海道株式会社人事総務部長 萩庭 寿人 氏
 - ・企業側の視点から、専門高校と連携に至ったきっかけ
 - ・マイスター・ハイスクール事業における静内農業高校での取組について
 - ・水産高校との商品開発や農業高校との連携事業などの実践事例について
 - ・高校との関わりが企業側にどのような効果をもたらすのか、また、社会を幸福にする好循環をいかにして創るのかについて
 - ・取組の背景にある自社の理念や、北海道の産業全体を元気にしたいという地域産業活性化に向けた思いについて

パネルディスカッション「専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方について」

7名をパネリストに迎え、産学連携コーディネーターによる司会の下、意見交換を行いました。
主な発言内容は次のとおりです。

<産業界>

- ・産業界全体を考えて、人材育成につながる産学連携をするべき
- ・行政、学校、企業の役割分担をして ONE-TEAM で取り組むことが重要 など

<高校生>

- ・早いうちから産業界について知る機会が欲しい
- ・企業の方と初対面では質問もしづらいので、長期的な関わりの機会が欲しい など

【司会】

- ・北海道教育庁学校教育局高校教育課
産学連携コーディネーター 月館 海斗

【パネリスト】

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| ・静内農業高校生産科学科3年 | 三浦 聖晴 さん |
| ・札幌工業高校土木科3年 | 飯島 道大 さん |
| ・旭川商業高校流通ビジネス科3年 | 佐藤 藍 さん |
| ・国分北海道(株)人事総務部長 | 萩庭 寿人 氏 |
| ・北海道経済連合会常務理事 | 百瀬 康弘 氏 |
| ・(株)砂子組企画営業部長 | 真坂 紀至 氏 |
| ・国分北海道(株)道央支社道央支店
営業業務担当 | 高橋 柚珠乃 氏
(R5年度静内農業高校卒業) |



司会の月館コーディネーターと三浦さん



左から飯島さん、佐藤さん、国分北海道 高橋氏



活発な意見交換の様子



パネルディスカッション中の会場の様子



左から国分北海道 萩庭氏、道経連 百瀬氏、砂子組 真坂氏

まとめ

○ 産学連携コーディネーター 月館 海斗

- ・自社の採用のためだけではない、産業界全体の活性化に向けた人材育成の取組に感謝する。
- ・専門高校と産業界の長期的なつながりが人材育成に重要である。
- ・生徒から、「チャレンジできる環境が欲しい」という要望は、産業界にとっても、今後につながる気付きとなった。
- ・教育委員会としても地域、業界を越えたコンソーシアムづくりをすることで、学校と産業界がフラットな関係で共創する関係、企業と学校が社会を一緒に創っていく関係を構築していけるよう取り組みたい。



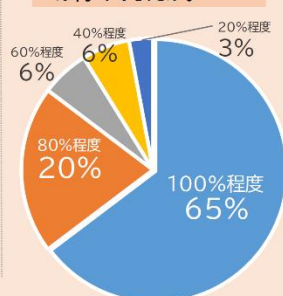
司会を務めた月館コーディネーター

参加者アンケート

○ 本事業の概要が分かりましたか。



○ シンポジウムの満足度は何%でしたか。



○ シンポジウムに参加し、実践してみたいと考えた内容

- ・あらためて学科間連携や職業学科同士の学校連携を積極的に行っていきたいと感じた。(学校関係者)
- ・業界全体で産学連携に取り組む必要性を感じた。(企業関係者)
- ・生徒が「自分の興味を深掘りする大切さ、楽しさを感じているが、一方で知らない分野を知ることの大切さも感じた」という一言が印象的だった。生徒がいろいろな仕事について知ることができる場所も必要だと感じた。(その他)

○ 参加した感想

- ・高校生の発表レベル、活動のレベルの高さに驚かされた。(企業関係者)
- ・人口減少の中、「企業とともに」という考え方を、企業側から聞くことができ、心強く感じた。(教育委員会担当者)
- ・生徒と大人がフラットに意見を言い合っ、みんなで未来を考える、素敵な場であると感じた。(その他)

御参加いただきました皆様、本当にありがとうございました！



マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」

ONE-TEAM News

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

第4号

令和7年(2025年)

1月16日

令和6年度から2か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や専門高校と産業界との持続可能な連携など、各校の好事例について参考として情報提供します。



『高校生チャレンジ in どさんこプラザ』を開催しました

令和6年12月13日(金)、14日(土)の2日間、道立高校の生徒が学科の枠を越えて連携し、地域の企業等と協働で開発した商品を販売することなどを通して、学校や地域の魅力を広く周知するとともに、協働のためのコミュニケーションや6次産業化を学ぶ機会とするイベントを、北海道どさんこプラザ札幌店で開催しました。

〇販売した商品と開発に携わった学校・企業

函館水産高校×(株)合食 函館第一工場



函館あさひ ばりほぐし

道産ぶりの活用、地域活性化を念頭に、函館水産高校の生徒が試行錯誤を重ねた試作品を地元企業の協力を得て商品化したものです。デザインやラベルにもこだわり、プリの生命力と地域の想いが表現されています。程よい塩味と酒粕の風味が香る商品です。

富良野緑峰高校×(有)共済農場



富良野トマトパテ

地元企業と総合ビジネス科商業クラブの生徒が協働で開発した商品です。地元の食材を使用し、トーストや野菜のほか、クラッカーやチーズにのせるなど、様々なアレンジで楽しむことができる商品です。

下川商業高校×(有)たばた商事



しいたけうどん

毎年実施している札幌市内での販売実習会に向けて、下川町にある手延べうどんの製麺所と協働して開発したオリジナルうどんです。下川産小麦「はるゆたか」に、下川町産のしいたけのパウダーを練り込み、しいたけの風味が香る商品に仕上がりました。

留萌高校×(株)フタバ製麺



とばせん

3年生の課題研究の中で「鮭とばの皮を利用した名産品の作成」というテーマのもと、地元企業の協力をいただき、鮭皮を油で素揚げし塩味に仕上げた商品です。パリッとした食感が特徴で、「とばせん」というネーミングは生徒が考案しました。

更別農業高校×北海道エア・ウォーター・アグリ(株) 十勝更別工場



さらのう キーマ さらのう RED キーマ

更別村が作付面積・生産量ともに日本一の大豆(さらのうキーマ)と金時豆(さらのう RED キーマ)を使用したキーマカレーを開発しました。更別産の「コーン」や「すもも」も使用。村の味覚がたっぷり入った商品です。

根室高校×(有)根室菓舎 はやかわ



しまふくろうサブレ しまえながサブレ さんまサブレ

地元企業と商業科3年生の生徒が協働で開発した商品です。3商品とも生徒が考えたオリジナルの型を使用して製造しており、「しまふくろうサブレ」はバタークリームを挟んだ商品になっています。

〇販売会に向けた準備

□ POPの作成



□ チラシの作成



□ ポスターの作成



POPは商品開発を行った学校で作成し、チラシとポスターは苫前商業高校の生徒の皆さんが作成しました。

マーケティングに関する学習を踏まえ、商品の特長がよく伝わる仕上がりとなりました！



○販売会当日の様子（12月13日（金）、14日（土）） 場所：北海道どさんこプラザ札幌店



商品を陳列した売場の様子



販売実習の様子（根室高校）



販売実習の様子（富良野緑峰高校）



イベントのPRをする様子（更別農業高校）



イベントのPRをする様子（留萌高校）



2日間で完売することができました！



中島教育長へ接客対応の様子（苫前商業高校）

<販売当日までの流れ>

- 事前情報交換会（12/2（月））
販売協力校の皆さんが、どの商品についても説明できるように、商品の提供校から商品のPRポイントなどについて説明を受けました。
- 販売前日準備（12/12（木））
商品の陳列やPR方法などアイデアを出し合い、売り場の準備を行いました。
- イベント当日（12/13（金）～14（土））
PRコーナーや、販売ブースにおける対応を分担して行いました。
接客においては、事前情報交換会で学んだ内容を基に、お客様へ商品の説明をしました。



中島教育長と参加した生徒で集合写真（富良野緑峰高校、留萌高校、苫前商業高校、根室高校）

【販売担当校】

12/13（金）
富良野緑峰高校
留萌高校
苫前商業高校
更別農業高校
根室高校

12/14（土）
富良野緑峰高校
留萌高校
苫前商業高校
根室高校

販売予定の商品は全て完売となり、来場された方々から好評をいただいたほか、生徒にとっても今後の学習につながる多くの学びがありました。



○お客様の声

- ・高校生は積極的で元気があって好感がもてた。また、商品説明もしっかりしてくれた。
- ・緊張しながらも頑張って声をかけてくれていると感じ、嬉しかった。
- ・是非、今後もこのような企画を続けてほしい。

など

○事後情報交換会（12/16）、アンケート調査での参加生徒の声

- ・事前にもっと他校の商品研究をするべきだった。
- ・商品のレシピなどを掲載したチラシを、作成するとよかった。
- ・テレビやラジオ、InstagramやXなどで告知するとよい。
- ・お客様に「この商品は食べたことある？」と聞かれ、事前に試食会を行うとよいと思った。
- ・ポスターを駅の構内などの様々な所に貼るなどして、もっとPRしてもいいのではないかなど



マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」

ONE-TEAM News

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

第5号

令和7年(2025年)
2月17日

令和6年度から2か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や専門高校と産業界との持続可能な連携など、各校の好事例について情報提供します。



『4 S サミット』を開催しました

令和7年1月24日(金)、産業教育に最前線で携わる代表者が一堂に会し、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」における取組が、専門高校と産業界との持続可能な連携に資するよう、次年度に向けた共通認識を図ることを目的として開催しました。

○「4 S」とは？

- ・専門高校 (Senmon Koukou)
 - ・産業界 (Sangyoukai)
 - ・産学連携コーディネーター (Sangakurenkei Coordinator)
 - ・指導主事 (Shidoushiji)
- の4つの「S」を意味し、それぞれの代表者が一堂に会し意見交換を行う場が「4 S サミット」です。

専門高校と産業界の持続可能な連携について協議



○基調講演 「北海道に根ざした企業が考える人材育成～未来の北海道産業を考える～」

講師：株式会社セイコーマート商品本部取締役本部長 辻道 雅彦 氏



セイコーマートにおける人材育成等について説明する辻道氏

- セイコーマートのサプライチェーン全体に関わる取組
- 北海道産業と密接に関わった地域との取組事例として、自治体との協定締結や、地域からの要請に応えた出店事例
- 地域産品を活用した商品開発（規格外メロンを活用した商品、和ハッカを使用したチョコミントアイスバーなど）
- 高校生対象の各種コンテスト開催や、学習の成果を生かした製品の商品化など、次世代の人材育成に関わる各種取組の紹介
- 人材育成においてチャレンジ精神や向上心、実行力や地域貢献への思いを育むことが重要

○意見交換・協議 進行：ONE-TEAM コミッティ委員（北海道産業教育審議会会長）岡部 善平 氏

協議議題1

「縦のつながり～企業や中学校との持続可能な連携の実現に向けて～」

※参加者からの主な御意見

- 学校と企業の連携においては、目的を共有した上で Win-Win の関係を構築することが大切。
- 学校でできること、企業でできることは異なるので、互いの得意分野を生かした、持続可能なキャリア教育を行うことが重要。
- 「職業学科理解推進ガイド」※のように、進路について中学生の主体性を生かすことにつながる取組が必要。
- 中高の連携は単発ではなく、カリキュラムに入れ込む必要。

※中学生や保護者、中学校の先生方に、職業学科についての理解を一層深めてもらうことを目的として作成したガイドブック。詳しくはこちら→



協議議題について、意見交換を行う様子

協議議題2

「横のつながり～職業学科の垣根を越えた専門高校 ONE-TEAM の実現に向けて～」

※参加者からの主な御意見

- 学科間連携は、時間割や行事の調整など難しい面もあるため、第三者の調整役が入ることも1つの方法である。
- 専門高校に入学すると、進路の選択肢が狭くなるイメージがある。学科間連携を推進することでより広い学びにつながるのではないかと。



専門高校の代表として校長先生方より多くの御意見が寄せられました



産学連携について、これまでの取組を説明する月館コーディネーター



意見交換・協議の進行、まとめをお引き受けいただいた岡部氏

まとめ ONE-TEAM コミッティ委員（北海道産業教育審議会会長）岡部 善平 氏

- 学校と企業、中学校等との縦の連携において、まずは互いの目的を共有する場を設定することが大切。
- 中高連携、産学連携、学科間連携を単発の取組にせず、持続可能な形とすることが重要。
- 連携を深めるためには、適正規模の取組を行い、「確かな連携」を構築することが大切。



好事例の紹介

学校と産業界の持続可能な連携について、先進的な事例や特色ある取組を紹介します。
今回は、ダイキン工業（株）と連携した旭川工業高校における人材育成についてです。

「旭川工業高校の空調設備に関する人材育成に協力したい」というダイキン工業（株）のご厚意で、令和5年度から連携が始まり、先生方がダイキンの研修施設を視察するとともに、工業高校におけるエアコンを活用した人材育成などについて意見交換を行ってきました。さらに、学校を会場として、「教員向け空調人材育成セミナー」を開催し、先生方が配管工事や取付工事、運転試験などを体験した上で、両者で意見交換を行い、エアコン据付実習を工業高校の教育課程に位置付けることとなりました。



ダイキン工業（株）



旭川工業高校



令和6年5月、学校で開催された「教員向け空調人材育成セミナー」では、先生方が空調に関する基礎知識の講習や、取付工事などの実技指導を受けました。

その後、今後の授業における実践について意見交換を行いました。



令和6年12月、エアコン据付実習用機材5セット（専用工具を含む）が贈呈されました。

贈呈された機材は、今後、科目「実習」や「空調設備」、出前講座などで活用します。



産業実務家教員の募集について

専門高校との持続的な連携が可能な個人又は企業等をリスト化し、全道の専門高校に配付することで、連携体制の構築を図ることを目的として、生徒に対して高度な知識・技術や、実践的・体験的な学習機会を提供していただける「**産業実務家教員**」を募集しています。

【産業実務家教員とは？】

専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所のことを本事業では「産業実務家教員」と呼んでいます。

生徒に対して高度な知識・技術や、実践的・体験的な学習機会を提供することに加え、各産業や会社毎の業務内容等について生徒に理解を深めてもらうことなどを目的としており、持続的で専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係を構築することを目指します。

期待される連携の例



【申込締切】

令和7年（2025年）2月28日（金）

【申込に当たって】

- 連携の際に、交通費や謝礼などの支払いはありません。
- 個人又は営業所や工場などの事業所単位で登録してください。

【登録方法】

下の2次元コードを読み込み、道教委Webページ内「産業実務家教員に関する意向調査」の覧に掲載されているURLから登録フォームにアクセスし、御登録ください。



このような方々は是非、御登録下さい！

- 高校と連携した取組を行いたい、どこに連絡をするべきか分からない方。
- 高校生に自社や業界の業務内容を是非知ってもらいたいと考えている方。
- 会社に高校生を招いて、職場の意識改革を行いたいと考えている方。
- 業界の発展のために、高校生を積極的に指導したいと考えている方。

登録されたらどうなるの？

登録していただいた皆様の情報を集めた「産業実務家教員リスト」を作成し、全道の専門高校に配付します。

専門高校は各学校のニーズに合わせて、リストの中の産業実務家教員に直接連絡を取り、具体的な連携の実施に向けて、打合せを重ね、連携した取組を実施します。

産業界の皆さん、北海道産業の次代を担う
職業人材育成に向けて、御登録をお願いいたします。

左記資料や、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら↓



【図 20】 ONE-TEAM ニュース第5号（2ページ目／全2ページ）

令和 6 年度から 2 か年で実施する文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携の好事例について情報提供します。



『産学連携カンファレンス』を開催しました

令和 7 年 2 月 20 日 (木)、産業界と連携している専門高校の取組や、成果を本道の産業教育の関係者が共有することにより、専門高校における持続可能な職業人材育成システムの構築を促進することを目的として開催しました。
生徒・教員・企業関係者を合わせて 173 名が参加し、産学連携の在り方について理解を深めました。

○発表 1 「マイスター・ハイスクール事業における連携と成果について」

北海道厚岸翔洋高等学校 教頭 長谷川 智 人 氏



長谷川氏による発表と参加者の様子

<主な発表内容>

- 企業や関係機関と連携した学習活動において、資源管理型漁業への IT 活用や未利用魚を活用した新商品の開発による、ふるさと納税返礼品化などを図った成果について
- 多くの生徒に、「地域に貢献したい」という意識や「課題解決に向け多面的に考え行動することが多くなった」という実感があり、さらに自己肯定感の向上を感じるなど、意識・行動に変容が見られたことについて
- 産学連携による地域課題の解決に向け、高校 3 年間で系統的に取り組み、探究活動の充実が図られたことについて
- 自走化に向けた、学校設定科目やコミュニティ・スクールの導入について

○発表 2 「地元放送局として専門高校を応援する理由～水産高校・農業高校ウィークをとおして～」

札幌テレビ放送株式会社 大 阪 し の 氏



STV の取組について説明する大阪氏

<主な発表内容>

- 「地域貢献をとおして、北海道になくてはならない企業になる」という自社の思いについて
- コロナ禍による教育機会の減少と、販路を失った農産加工品販売に対する支援として実施した「ほっかいどう農業高校大会」について
- 専門高校とコラボして取り組んだ企画に対する、視聴者からの多くの応援の声と、「もっと応援したい!」という思いから始めた農業高校や水産高校とのコラボ企画について
- 専門高校を応援することは地元テレビ局としての使命であり、そのためには、オール北海道での「横の連携」の必要性について

○グループ協議

協議議題 1

A「地域の担い手を育成する専門高校の役割」

【教員・企業関係者】

B「産業界と連携した学びで得られたもの」

【生徒】

教員・企業関係者は、それぞれの立場から考える「専門高校の役割」について協議しました。

生徒は、産学連携の取組や、「学びで得られたこと」について、模造紙を用いてまとめました。



学科の垣根を越えた生徒による意見交換の様子



教員・企業関係者による協議の様子

協議議題 2

「今後取り組んでみたい産学連携のかたち」

【生徒・教員・企業関係者】

生徒による協議 1 で話し合った「産業界との学びで得られたこと」についての発表の後、今後の産学連携のあるべき形や、どのような連携ができるか等について活発な意見交換が行われました。



協議議題 1 における内容を発表する生徒の様子

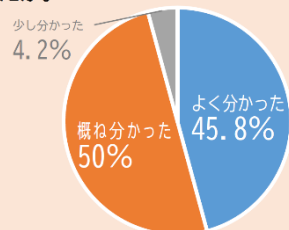


生徒を交えた活発な意見交換の様子

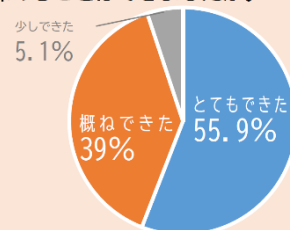


『産学連携カンファレンス』参加者の声

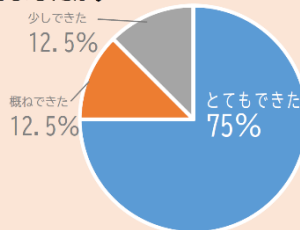
【企業関係者・経済団体関係者】
専門高校の取組や成果が分かりましたか。



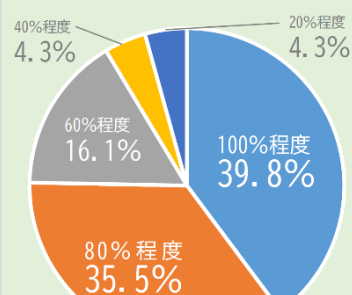
【専門高校の教員】
産学連携の意義や重要性について、理解を深めることができましたか。



【専門高校の生徒】
産学連携による効果を実感することはできましたか。



【参加者全体】
今後、持続可能な連携体制を構築する上で、本カンファレンスの満足度・充実度は何%程度でしたか。



○参加者からの主な感想

【企業関係者・経済団体関係者】

- ・本カンファレンスの定期的な開催を望む。
- ・商品開発から、販売・プロモーションまでの一連の流れを連携して行い、その利益を使ってさらに大きな挑戦をする3カ年プロジェクトのような長期的な取組をしたいと感じた。

【専門高校の教員】

- ・企業の方と教員や生徒が話し合う機会が多くないので、よい経験になった。
- ・まずは積極的に企業の方や経済団体の方と連絡を取ってみたいと思った。
- ・他の専門高校や企業との共同プロジェクトを立ち上げるのも面白いと感じた。
- ・連携している高校同士で、情報交換や学校訪問などつながりをもう少しもちたい。

【専門高校の生徒】

- ・地域との関わりや、高校生同士のコラボレーションなどを、もっとやるべきと感じた。
- ・様々なことに挑戦して、疑問や課題を見出すことを今後も実践したい。



次年度における取組の概要について

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の令和7年度（事業最終年度）の事業計画を策定しました。主な内容をご紹介します。

1 拠点校が1校→4校へ拡充

今年度は、R3～5年度のマイスター・ハイスクール指定校の静内農業高校が拠点校でしたが、令和7年度から右図のとおり、**農業・工業・商業・水産高校から各1校、合わせて4校の拠点校**で、持続可能な職業人材育成システムの横展開を推進します。

これにより、広大な北海道において、地域の特性を生かした連携構築の推進や、参集イベントの開催が可能になります。

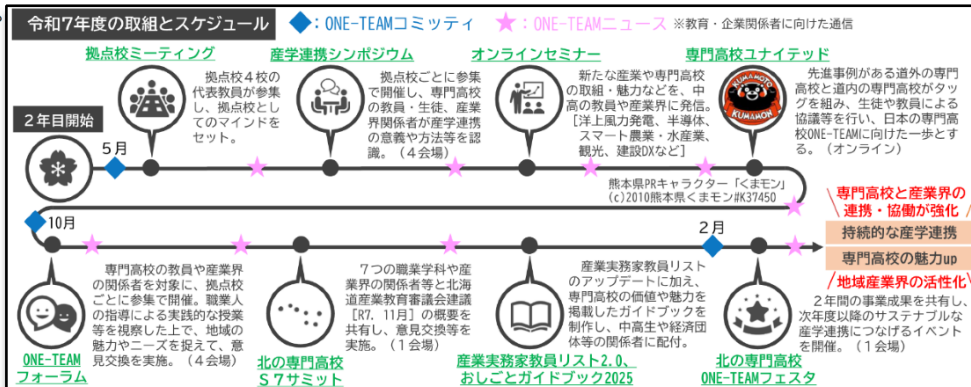


2 産学連携に資するイベント・セミナーの開催

下図の取組等を通じて、全道の専門高校における持続可能な産学連携体制の構築を目指します。

新たな企画として、先進事例がある道外の専門高校とタッグを組み実施する「**専門高校ユナイテッド**」や、職業学科の代表者と産業界で、意見交換を行う「**北の専門高校 S7サミット**」のほか、2年間の事業成果を共有する「**北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ**」を開催します。

また、今年度1会場で実施した「産学連携シンポジウム」は、**4会場で開催**し、「ONE-TEAM ニュース」も9回発行し、情報発信を充実させます。



次年度も各種イベント、セミナーへの積極的な参加をお待ちしています。

本道産業の担い手を育成する道教委事業
「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 監修

中学生の進路選択に役立つ

職業学科

理解推進ガイド

POINT

01

道内公立高校に設置している**全ての職業学科**を一挙掲載

POINT

02

小学科ごとに学習内容や就職先などの詳細を掲載

商業

家庭

農業

工業

看護

水産

福祉



～職業学科～

道内の公立高校には、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉の7つの職業学科が設置されています。

本ガイドは、中学生や保護者、中学校の先生方に、職業学科についての理解を一層深めてもらうことを目的として作成しました。

令和6年10月 北海道教育庁学校教育局高校教育課

農 業 科

食料生産・環境創造の未来を支える人づくり

目指す人材像

農業や農業関連産業の学びを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（21校）

岩見沢農業、深川東、新十津川農業、当別、倶知安農業、ニセコ、真狩、留寿都、壮瞥、静内農業、大野農業、旭川農業、富良野（新設校）、幌加内、遠別農業、美幌、帯広農業、更別農業、士幌、別海、中標津農業

（注）令和7年度入学者選抜の実施校

大学等進学率と主な進学先

進学率
45%

・帯広畜産大学
・弘前大学
・酪農学園大学
・東京農業大学 など

（注）令和6年3月卒（道教委調査）

農業科における学びのカテゴリー

農業科の学びは、大きく分けると次の4つのカテゴリーに分類できます。

① 生産技術・経営に関すること

作物や野菜、草花などの栽培、家畜の飼育や農業機械、植物バイオテクノロジー技術や、ICT機器を活用した最先端の農業技術について学びます。

【実習テーマの例】

野菜、草花等の播種から収穫までの管理、ウシ・ブタ・鶏等の飼養管理、ドローンによるセンシング、土壌分析等の栽培環境についての分析・調査、農業経営に関する実践的な学習、トラクターの乗車実習 など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、危険物取扱者、土壌医検定、家畜商免許、ガス・アーク溶接技能講習 など

【主な就職先】

就農、北海道庁（農業職）、北海道クボタ、中セキ北海道、カルビー、ホクリョウ など



【稲の収穫作業】



【ウシの飼養管理】

② 食品に関すること

食品加工に関する学習と製造実習、それに関わる微生物のはたらきや、食品の流通の仕組み、地域特産物を活用した商品開発などを学びます。

【実習テーマの例】

農産加工品製造（パン、ジャムなど）、肉加工品製造（ハム、ベーコンなど）、乳加工品製造（市乳、チーズなど）、食品化学・微生物に関する実験・衛生検査、実習生産物の販売実習 など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、食品衛生責任者養成講習、食生活アドバイザー など

【主な就職先】

スターゼンミートプロセッサー、国分北海道、六花亭、雪印メグミルク など



【ソーセージ製造実習】



【食品衛生検査】



③ 国土の保全や環境創造に関すること

農業土木施工や森林管理、造園など農業生産環境を創造する分野、森林経営等に関する分野について、先端技術の活用も含めて学びます。

【実習テーマの例】

測量や環境調査、ICT機器を使った土木施工、演習林における伐木実習、林道の整備、下草刈り、林産物を使った木工品製造(イスなど)、CADソフトを用いた造園設計、日本庭園・洋風庭園造成・ガーデニング など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、測量士補、土木施工管理技士補、造園技能士、刈払機取扱作業安全衛生教育 など

【主な就職先】

北海道開発局、北海道庁（技術職）、地崎道路、田端本堂カンパニー、砂子組、北海道森林管理局 など



【ドローンを用いた測量実習】



【演習林での木の伐倒実習】



④ 植物や動物、地域資源の活用や地域振興に関すること

農業生産物の活用や新たな価値創造について、さらに地域振興に寄与するため、地域資源を活用した学習などを行います。

【実習テーマの例】

フラワーアレンジメント、園芸セラピー、アニマルセラピーに関する実習、地域資源を生かした商品の開発・販売、実習生産物の販売、小学校等との交流学習 など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、リテールマーケティング（販売士）検定、フラワー装飾技能検定、初級園芸福祉士 など

【主な就職先】

JA、ホクレン、空知商工信用組合、特別養護老人ホーム、障がい者支援施設 など



【フラワーアレンジメント実習】



【ホースセラピーの学習】

特徴的な部活動等

【農業クラブ3大事業】

農業学習を通して、科学性、社会性、指導性の向上を目指し、日常の学習の中で探究活動に取り組みます。日々の探究学習の成果を発表する「実績発表大会」、日頃の学びから考えたことなどを発表する「意見発表大会」、農業に関する専門知識・技術を競う「技術競技大会」があり、優秀な成績を収めると全国大会に出場できます。

【プロジェクト専攻班】

日頃の学びを生かし、自ら課題を設定し、その解決に向けて、チームによる協働学習で、農業高校生全員が取り組みます。例えば、ドローンによるリモートセンシング技術を活用し、高品質な農業生産について研究する班や、地域特産物のコメを活用し、日本酒の開発に取り組む班もあります。また、地元の木材を活用したスロープトイを作成し、子ども達が木に親しむ機会を作る活動をしている班など、学校・学科ごとに多様な活動があります。



【農業クラブ実績発表大会】



【木の育の活動】

工業科 テクノロジーで未来を創る人づくり

目指す人材像

ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（16校）

滝川工業、札幌工業、札幌琴似工業、札幌国際情報、小樽未来創造、函館工業、室蘭工業、苫小牧工業、旭川工業、富良野（新設校）、名寄、留萌、北見工業、紋別、帯広工業、釧路工業

（注）令和7年度入学者選抜の実施校

大学等進学率と主な進学先

進学率
33%

・室蘭工業大学
・北見工業大学
・北海学園大学
・北海道科学大学 など

（注）令和6年3月卒（道教委調査）

工業科における学びのカテゴリー

工業科の学びは、大きく分けると次の6つのカテゴリーに分類できます。



① 機械系

機械の設計や工作、加工の方法などを学びます。

【実習テーマの例】

溶接、鋳造、旋盤、機械加工、自動制御、原動機 など

【取得できる主な資格等】

ボイラー技士、危険物取扱者、ガス溶接技能講習

【主な就職先】

トヨタ自動車、日本製鉄、北海道旅客鉄道、北海道ガス、北海道電力、デンソー北海道、東芝エレベータ、ミツミ電機、サッポロビール、官公庁（機械職） など



【自動車整備の出前授業】



② 電気系

発電・送電・配電や自動制御などを学びます。

【実習テーマの例】

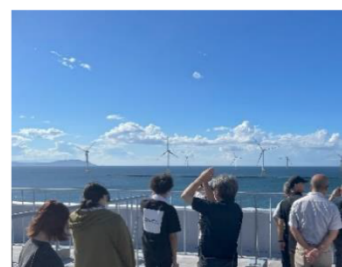
電気工事、モーター、自動制御、プログラミング など

【取得できる主な資格等】

電気工事士、電気主任技術者、危険物取扱者

【主な就職先】

トヨタ自動車、アイシン、富士電機、日立ビルシステム、北海道電力、北海電気工事、北海道電気保安協会、三菱電機ビルソリューションズ、官公庁（電気職） など



【洋上風力発電施設の見学】



③ 情報系

コンピュータを使った制御や通信の基礎を学びます。

【実習テーマの例】

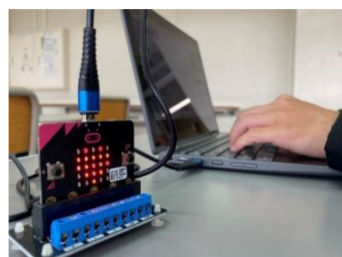
プログラミング、電子回路の特性、光通信の実験 など

【取得できる主な資格等】

工事担任者、ITパスポート、基本情報技術者

【主な就職先】

日立製作所、NTT-ME、キャノン、NTT東日本-北海道、北海道日立、北海道電力ネットワーク、ミツミ電機、セイコーエプソン、札幌日信電子 など



【プログラミングによるLED制御】



④ 建築系

ビルや住宅などの設計、製図、施工などを学びます。

【実習テーマの例】

木工、測量、CAD製図、軸組模型の製作、足場組立 など

【取得できる主な資格等】

建築CAD検定、トレース技能検定、建築施工管理技士補

【主な就職先】

浅沼組、鹿島クレス、大成設備、大和ハウスリフォーム、西原衛生工業所、伊藤組土建、岩田地崎建設、岩倉建設、丸彦渡辺建設、北海道開発局、官公庁（建築職） など



【3次元による建築物の設計】



⑤ 土木系

道路や鉄道、橋などの計画、設計、施工などを学びます。

【実習テーマの例】

測量、コンクリートの製作や強度試験、土質試験 など

【取得できる主な資格等】

土木施工管理技士補、測量士補、危険物取扱者

【主な就職先】

東京地下鉄、J-POWERハイテック、東日本高速道路、伊藤組土建、岩田地崎建設、岩倉建設、北海道旅客鉄道、砂子組、北海道開発局、官公庁（土木職） など



【VRを活用した安全教育】



⑥ 化学系

基礎化学や成分分析、材料製造などを学びます。

【実習テーマの例】

水の分析、消しゴムや湿布づくり、UV分析 など

【取得できる主な資格等】

危険物取扱者、毒物劇物取扱責任者、ボイラー技士

【主な就職先】

旭化成、出光興産、AGC、コスモ石油、三井化学、荏原環境プラント、日本製紙、苫東石油備蓄、ホクレン肥料、北海道ガス、ミツミ電機 など



【硫酸銅の製造実験】

特徴的な部活動等

【高校生ものづくりコンテスト】

全国工業高等学校長協会が、産業の発展を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若年技術・技能労働者の育成を目的に開催している全国的な競技大会です。

現在は、旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量、溶接の8部門で競う大会となっており、道大会の上位者が全国大会に出場できます。



【電気工事部門】

【北海道高等学校ロボット競技大会】

北海道工業高等学校長会と北海道高等学校工業クラブ連盟が、次世代を担う技術者としての資質を向上させることなどを目的に開催している競技大会です。

想像力を発揮して仲間と協力しながら、工夫を凝らしてロボットの製作・調整に取り組み、大会当日の点数を競います。道大会の上位者は、全国産業教育フェアにおいて開催される全国大会に出場できます。



【ロボットの操作】

商 業 科 ビジネスを通して未来を創る人づくり

目指す人材像

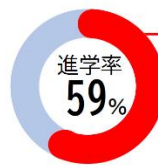
ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（29校）

岩見沢緑陵、滝川西、奈井江商業、札幌国際情報、江別、千歳、札幌東商業、市立札幌啓北商業、有朋、小樽未来創造、岩内、虻田、苫小牧総合経済、函館商業、福島商業、八雲、旭川商業、土別翔雲、下川商業、留萌、苫前商業、稚内、北見商業、網走桂陽、紋別、帯広南商業、釧路商業、根室、中標津

（注）令和7年度入学者選抜の実施校

大学等進学率と主な進学先



- ・千葉商科大学
- ・小樽商科大学
- ・北海商科大学
- ・札幌大学
- ・札幌学院大学 など

（注）令和6年3月卒（道教委調査）

商業科における学びのカテゴリー

商業科の学びは、全員が学ぶ基礎的科目、総合的科目の他に、4つの分野を学習します。4つの分野をどのように学習するかは、各学校に設置されている小学科の特性や、地域の状況によって異なります。



基礎的科目

ビジネスの役割やビジネスに対する心構え、ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションなど、ビジネスの基本を学びます。

【実習テーマの例】

ビジネスに関する計算、販売活動や電話応対時のビジネスマナー など

【取得できる主な資格等】

ビジネス計算実務検定、ビジネスコミュニケーション検定、英語検定 など



① マーケティング分野

消費者が商品を購入するまでの行動や意識などを調査することで顧客を理解し、新しい商品を開発したり、販売するための仕組みや、観光ビジネスを学びます。

【実習テーマの例】

企業における売買、商品開発、プロモーション、観光などのサービス、市場調査及び顧客との対応 など

【取得できる主な資格等】

商業経済検定 など



【販売活動のワークショップ】



② マネジメント分野

グローバルな経済の仕組みや法律などを踏まえて、経営資源を最適に組み合わせ、企業経営や新たなビジネスの創造と展開を学びます。

【実習テーマの例】

企業活動及び地域の経済や産業の動向の調査、法人税や消費税などの申告書の作成 など

【取得できる主な資格等】

商業経済検定、ファイナンシャル・プランナー など



【専門学校での体験学習】



③ 会計分野

会社が取引をする際の商品やお金の流れから、その会社の価値や利益などが分かる財務諸表等を作成し、利害関係者にその情報を提供してビジネスに活用する仕組みを学びます。

【実習テーマの例】

企業における会計処理、会計ソフトウェアの活用、財務諸表分析 など

【取得できる主な資格等】

簿記実務検定、財務諸表分析検定、財務会計検定、管理会計検定 など



【財務諸表分析の授業風景】



④ ビジネス情報分野

適切な情報を提供するため、ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの使い方、ネットワークやセキュリティなど、コンピュータの知識・技術を基礎から学びます。

【実習テーマの例】

ソフトウェアを活用した情報の分析、プログラミング、情報システムの開発、ウェブページ制作 など

【取得できる主な資格等】

ITパスポート、基本情報処理技術者、ビジネス文書実務検定、情報処理検定 など



【高大連携でのプログラミング授業】



総合的科目

商業の基礎的科目と上記の4つの分野で学習した内容をもとに、ビジネスに関する課題を解決するために研究したり、より実務に即した体験的・実践的な学習を行います。

【実習テーマの例】

新商品の企画と開発、観光などのサービスに関する実習、パッケージデザイン、地域の経済や産業の動向の調査、コンピュータを活用した経営のシミュレーション、企業の財政状態や経営成績などの分析、コンピュータを活用した会計帳簿の作成、企業活動を改善する情報システムの開発、データベースの構築、アプリ開発 など



主な就職先

事務職や販売、製造、公務員など、就職先は様々です。

北洋銀行、旭川信用金庫、日本郵便北海道支社、北海道電力、北海道旅客鉄道、旭川トヨタ、ケイシーシー、柳月、イオン北海道、ジョイフルエーカー、星野リゾート、ANA FESTA、北海道職員（一般行政）、北海道警察、市町村職員 など

特徴的な部活動等

【各種競技大会】

全国商業高等学校長協会が、商業教育の一層の充実と振興を図り、商業を学ぶ生徒がそれぞれの技術を高めることを目的に開催している全国的な競技大会です。

情報処理、簿記、ビジネス計算、ワープロ、プログラミングコンテスト、英語スピーチコンテスト、生徒商業研究の7つの大会があり、各大会における道大会の上位者が全国大会に出場できます。



【生徒商業研究大会】

【商業教育フェア】

道内高等学校で商業に関する科目を学ぶ生徒が、商品の開発や販売等に関する学習活動を実践するイベントです。

他校の生徒や来場されたお客様との交流を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高め、将来の産業界を担う「スペシャリスト」の育成と、商業教育の活性化を目指して行われています。



【商業教育フェア】

【図 29】職業学科理解推進ガイド（7ページ目／全 11 ページ）

水産科 海の明日を切り拓く人づくり

目指す人材像

水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（3校）

小樽水産、函館水産、厚岸翔洋

水産科における学びのカテゴリー

水産科の学びは、大きく分けると次の5つのカテゴリーに分類できます。



① 海洋漁業系

漁業生産に関する技術の習得及び船舶の運航に必要な資格「海技士」の取得を目指します。

【学科（コース）設置校】

小樽水産（海洋漁業科）
函館水産（海洋技術科）

【取得できる主な資格等】

海技士（航海）、小型船舶操縦士、潜水士など
※海技士は就職後、乗船履歴を得ることで取得できる。

【主な就職先】

漁船、貨物船（タンカー、RORO船等）、フェリー、
海洋調査船、官公庁船（北海道の実習船、取締船等）など

【専攻科】（設置校：小樽水産）



小樽水産の海洋コースでは潜水士の資格を取得できます。



【乗船実習（出航式）】



② 海洋工学系

船舶の運航に必要な資格「海技士」の取得に必要な、エンジンや機械の知識を学ぶことができます。

【学科（コース）設置校】

函館水産（機関工学科）

【取得できる主な資格等】

海技士（機関）、第三種冷凍機械責任者、小型船舶操縦士、ボイラー技士など
※海技士は就職後、乗船履歴を得ることで取得できる。

【主な就職先】

貨物船（タンカー、RORO船等）、フェリー、海洋調査船、
官公庁船（北海道の実習船、取締船等）、造船会社、自動車関連企業、冷凍倉庫業など

【専攻科】（設置校：函館水産）



【CADを用いた設計の実習】



③ 情報通信系

電気通信や情報通信などを学びます。

【学科（コース）設置校】

小樽水産（情報通信科）

【取得できる主な資格等】

総合無線通信士、陸上無線技術士、
特殊無線技士（海上・陸上）、電気
工事士、電気通信工事担任者など

【主な就職先】

電力会社、通信関連企業など

【専攻科】（設置校：小樽水産）



学校の屋上に設置されているアンテナタワー



【電気通信実習】



④ 資源増殖系

種苗生産・資源管理や操船や潜水などを学びます。

【学科（コース）設置校】

小樽水産（栽培漁業科）、厚岸翔洋（海洋資源科）、
函館水産（海洋技術科）

【取得できる主な資格等】

小型船舶操縦士、潜水土など

【主な就職先】

増殖事業に関する団体、水族館、
養殖業者、漁業組合、潜水関連企業、漁業後継など



サケの人工
種苗生産な
ど、本格的
な資源増殖
を学びます。



【水族館メンテナンス実習】



⑤ 水産食品系・その他

食品の加工、管理、開発、調理などを学びます。

【学科（コース）設置校】

小樽水産（水産食品科）、厚岸翔洋（海洋資源科）
函館水産（水産食品科、品質管理流通科）

【取得できる主な資格等】

食品衛生責任者、販売士、食生活アドバイザー
ボイラー技士、調理師（厚岸翔洋のみ）など

【主な就職先】

食品加工業、食品販売業、食品物流関連企業、
船舶（司厨）など



【調理実習】

乗船実習では漁業も学び、国際交流も実施

長期の乗船実習では、これまでにハワイやパラオ、台湾などに
寄港し国際交流なども実施しています。その航海中に航海や機関
に関する実習のほか、マグロ延縄実習を行うなど、漁業について
も学び、水揚げしたマグロは、漁獲した生徒が販売したり、水産
食品系の学科が缶詰にして販売するなど、地域の方々に喜ばれて
います。



2隻の実習船が大海原を駆け抜ける



【若竹丸】

2年次の長期乗船では国際航海を行う。
692トン 定員79名



【北鳳丸】

主に専攻科が乗船。遠洋区域を航行する。
634トン 定員55名

進学や船舶への就職で教員も目指せる

水産・海洋系の大学や短期大学への進学、船舶への就職で教員の資格が得られ、母校で教
員として勤務している卒業生も多くいます。

【水産・海洋系への進学実績】 水産大学校、福井県立大学、東海大学、福山大学、徳島文理
大学、東洋食品短期大学、国立海上技術短期大学（小樽、宮古、清水）、小樽水産高校専攻
科、函館水産高校専攻科など

家庭科 人と人をつなぐ人づくり

目指す人材像

よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する職業人



家政系

【学科設置校】

江別高校（生活デザイン科）、当別高校（家政科）
※江別高校には「服飾」と「染織インテリア」、当別高校には「保育」と「食物調理」の各コースがあります。

【開設されている授業】

ファッション造形基礎、フードデザイン、住生活デザイン、生活産業基礎、保育基礎、服飾文化、染織製作など

【取得できる主な資格等】

家庭科被服製作技術検定、家庭科食物調理技術検定、【異世代交流ファッションショー】
家庭科保育技術検定、色彩能力検定、建築CAD検定、
食品衛生責任者など

【主な進路先】

札幌大谷大学、北翔大学、酪農学園大学、藤女子大学、札幌保健医療大学、札幌大学、
光塩女子短期大学部、北海道文化服装専門学校、札幌こども専門学校、辻調理師専門学校など



看護科 北海道の医療を支える人づくり

目指す人材像

地域や社会の保健・医療を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人

学科設置校（2校）

美唄聖華、稚内（注）令和7年度入学者選抜の実施校

衛生看護科を設置する2校は、高等学校の看護に関する学科とその専攻科において、5年間の一貫したカリキュラムで看護師を養成するための教育を行う「**5年一貫教育**」を実施しています。

看護師国家試験合格率



（注）令和6年3月卒（道教委調査）

看護科における学び



衛生看護科

【実習テーマの例】

看護臨地実習（病院で行う看護実習）、体位変換（患者の水平移動や上方移動など）、バイタルサイン測定、血圧測定、ベッドメイキング、シュミレータやICT機器を活用した看護実習など

※多様な看護の場面を想定した実習を行います。

【取得できる主な資格等】

看護師国家試験

【主な就職先】

北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、市立美唄病院、市立稚内病院、北海道立旭川高等看護専門学院助産学科、北海教育大学養護教諭特別別科など



【シミュレーション実習】



【戴帽式】

福

祉

科

持続可能な福祉社会を担う人づくり

目指す人材像

人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人



福祉系

【学科設置校】

置戸高校（福祉科）

※介護福祉士国家試験の受験資格が得られるコースと福祉の心を基盤に、さまざまな分野への進学や就職を目指すコースがあります。

【取得できる主な資格等】

介護福祉士、介護職員初任者研修、救急救命講習など

【主な進路先】

特別養護老人ホーム、北海道医療大学、名寄市立大学、福祉系専門学校など

【その他、介護福祉士国家試験の受験資格が得られる公立高校】

留寿都高校（農業福祉科農業福祉コース）、剣淵高校（総合学科生活福祉系列）

介護福祉士合格率
令和2年度より4年連続100%



【介護実習】

寄宿舎について

農業科・水産科・看護科・福祉科には、寄宿舎（寮）が設置されている学校もあり、全道から同じ目的をもった生徒が共同生活を送っています。

3年間で寮で過ごす学校のほかに、1年生は全員が入寮し、2・3年生は選考により入寮できるといった制度を設けている学校もあります。



専攻科について

高校を卒業後に進学可能な専攻科（2年間）には、国家資格を取得する目的等で設置されているものと、自営者・後継者を育成するものがあり、要件を満たせば、他の高校を卒業した生徒でも入学することができます。

【国家資格を取得する目的等で設置】

- 美唄聖華高校と稚内高校の看護科では、通常、看護師になるのに6年以上かかるころ、一貫教育によって5年で国家資格を目指すことができます。**国家試験の合格率は全国平均を上回り**、保健師・助産師・養護教諭を目指して進学する生徒もいます。
- 水産高校の専攻科である、漁業科（小樽水産高校）と機関科（函館水産高校）では、2年間のうち11か月の乗船実習を経て、**修了とともに上級の海技士（航海・機関）を取得でき**、船長や機関長を目指します。また、情報通信科（小樽水産高校）では、航空局・海上保安庁、警察情報通信部や衛星通信関連企業などへの就職を目指します。

【自営業・後継者を育成する目的で設置】

- 富良野緑峰高校と別海高校には、農業特別専攻科が設置されており、**農業経営者や酪農自営者**となるために、高い教養と専門的知識・技術の深化を図り、**新しい時代の農業を発展させる人材育成**を行っています。
- ※富良野緑峰高校は令和7年4月に新設校となり専攻科は引き継がれます。

中学生版

For
Junior High School
Students

おしごとガイドブック
～2024年度版～



HOKKAIDO



WORK GUIDE



北海道のしごと



北海道教育庁
学校教育局
高校教育課



私たちの暮らす北海道は
たくさんの方の働きが支えています。
この冊子では北海道を支える産業の
仕事の様子を紹介します。

【図 34】 おしごとガイドブック～中学生版～（1 ページ目／全 8 ページ）

専門高校が取り組んでいる

専門高校では、北海道の未来を担う人材の育成に向けて、企業や小・中学校との「縦」のつながりと、学科の垣根を越えた専門高校同士の「横」のつながりの両面から、創意工夫のある産業教育に取り組んでいます。

北海道教育委員会では、こうした取組を通じて、生徒一人一人がもつ可能性や能力をさらに高める産業教育を推進し、次世代の産業の担い手となる人材の育成を進めていきます。



「海の見える化」

スマート水産で

【専門高校×地元企業の産学連携】

「水中ドローン」・「空中ドローン」は、水産業や海運業において、省力化や見える化、作業効率化などの点で、今後、より効果的な活用が期待されています。

厚岸翔洋高校では、潜水事業やドローン事業を手掛ける株式会社大歩の協力や支援を得て、各種ドローンの法令教育をはじめ、実践的かつ安全な操縦訓練のほか、地域の漁業従事者との「海の見える化」に向けた取組などを通して、スマート水産業に関する実践研究を推進しています。

厚岸翔洋高校 × 株式会社 大歩

新たな農業生産の可能性について学ぶ

【専門高校×地元企業の産学連携】

富良野緑峰高校は、エネルギーや農業、食関連の企業と連携し、高濃度酸素水を活用したメロン栽培の研究に取り組んでいます。2年間の調査を通して、収穫までの日数が早まるといった効果が明確になった一方で、灌水などの作業効率に課題があることも分かりました。生徒たちも地域特産物のよりよい栽培体系について学びを深めることができ、将来の持続可能な農業生産の在り方について深く考える機会となりました。

富良野緑峰高校 × エア・ウォーター北海道株式会社



商品開発

地元特産品を活用した

【専門高校×地元企業の産学連携】

苫小牧総合経済高校流通経済科では、菓子・パンの製造・販売を行う株式会社三星と、地元の特産品などを活用したコラボ商品の開発に取り組んでいます。

コラボ商品に関する企業からのオーダーを確認後、生徒が市場調査等を行い、商品を企画・立案し、企業にプレゼンテーションを実施します。社内で検討後、可能性が見いだされた企画については、サンプルの製造や学校との打合せなどを行い、製品として販売されます。

苫小牧総合経済高校 × 株式会社三星

「縦」と「横」のつながり



【学科の垣根を越えた連携事例】

本道の基幹産業である農業を担う人々の負担軽減を目的に、学科の異なる生徒が連携し、ビニールハウスのスマート化などに取り組んでいます。札幌工業高校の生徒が、ビニールハウス内の温度・照度の自動計測や散水等の遠隔制御を可能とするシステムを開発し、岩見沢農業高校のハウス内で、両校による実証実験を行っています。農業と工業の学びが、実社会でどのように必要とされているかをより深く理解することができ、将来の活躍の場を広げています。

岩見沢農業高校 × 札幌工業高校

【学科の垣根を越えた連携事例】

産学連携の推進に取り組んでいるノーステック財団の協力の下で両校が連携し、それぞれの学科の強みを発揮しながら、共通のテーマで「課題研究」に取り組んでいます。昨年度は、両校によるキックオフイベントや、両校が連携して開発したアイスクリームの販売会などを行い、今年度は、ご当地グルメ「あったか旭川まん」やイベント限定デザインの木工マグネットを開発し、市内で開催されたイベント「北の恵み食べマルシェ」で販売しました。

旭川農業高校 × 旭川商業高校



【専門高校と中学校技術科の連携事例】

滝川工業高校では、工業高校の学習内容や魅力を発信することを目的として、生徒が講師役を務め、市内の小中学校で出前授業を行っています。

中学校の技術科で実施した出前授業では、中学生が高校生のアドバイスを受けながら、プログラミングによるロボットカーの操作方法を学び、障害物を避けたり折り返したりするプログラミングに取り組みしました。調整を重ねてロボットカーがゴールにたどり着くと、拍手や歓声が起きていました。

滝川工業高校 × 市内の小中学校





HOKKAIDO

スマート 農業

北海道のしごと

先端技術と その効果



先端技術でニーズに
合った商品を実現

ミニトマトを栽培するハウスは、温度や湿度、照度等を設定し、自動制御で管理しています。また、収穫後のミニトマトは、糖度測定装置が内蔵された選別機を使い、消費者のニーズに合った商品を提供しています。

農業者の道を志したきっかけ

幼い頃から植物に触れることが好きで、将来は農業関連産業に就きたいと考え、岩見沢農業高校に入学しました。今の会社で就職を決めたのは、直売所での販売や、新千歳空港の草花装飾など、生産物を直接お客様に届けられる点に魅力を感じたことがきっかけです。



自分が栽培した花で空港を彩る

新千歳空港の装飾で使用する、草花や観葉植物を栽培する部門のリーダーとして、毎日、植物の状況を観察しながら作業内容を決め、パートさんへ業務を伝えています。北海道の玄関口を季節に合った装飾で彩ることができるように頑張っています。



株式会社北海道興農社

吉田 理乃さん

岩見沢農業高校
農業科学科卒業



HOKKAIDO

スマート 水産業

北海道のしごと

先端技術と その効果



海洋環境を見える化

海水温度をリアルタイムで可視化し、データを蓄積できるスマート水産の装置を導入しました。得られたデータは、漁業者のほか、函館水産高校などにも提供しており、カキやウニなどの養殖管理に活用されています。

育てた海産物を食卓へ

ウニ種苗センターは、ウニのほか、クロソイやコンブなど、様々な魚介類を育てており、函館水産高校で学んできたことが、この仕事をする上で大きな力となっています。今後は、効率的に生産性を上げられるよう取り組んでいきたいです。



緊張感にやりがい

魚介類を育てることは、プレッシャーを感じることもあります。水産高校の学びを生かすことができることや、自分が管理を徹底して育てた魚介類が出荷されることにやりがいがあるほか、職員やパートさんとコミュニケーションを取り、楽しく働いています。



上磯郡漁業協同組合
(ウニ種苗センター)

門間 渉さん

函館水産高校
海洋技術科卒業



【図 37】 おしごとガイドブック～中学生版～（４ページ目／全８ページ）

HOKKAIDO

半導体関連産業
北海道のしごと

先端技術と
その効果

工場では多くの電力を使用するため、大規模太陽光発電システムを導入し、CO₂排出量の大幅な削減を実現しています。また、昨年、工場内で荷物を運ぶ自動搬送ロボットを入れ替えし、業務の効率化に役立っています。

好きな「ものづくり」を生かせる
半導体産業

胆振東部地震を経験したことで電気の重要性に気付き、工業高校を志望しました。好きな「ものづくり」に携わることができ、就職先を探していたところ、スマートフォンや家電製品などに使用され、今後成長を続けていく半導体産業に魅力を感じました。

オペレーターの仕事内容

薄い円盤状のシリコンウェハーを加工するオペレーターとして、製造工程の仕事に携わっています。装置に異常がないかの点検や、消耗品の交換などを行っています。ガスや薬剤などの危険な物品を扱うこともあります。高校時代の安全教育が生きています。

ミツミ電機株式会社
大森 水産さん
苫小牧工業高校
電気科卒業

HOKKAIDO

観光
北海道のしごと

商業で学んだ
技術とその効果

会計やビジネス計算の知識と電卓のスキルは、お客様のニーズを踏まえたサービスについて、収支の概算を考える上で重要です。また、スタッフみんなで新しい宿泊プランを考える時には、企業活動の改善方法について、授業で経験したことが役立っています。

今の仕事に就職するまで

飲食店で働く母の姿を見ており、中学の時から将来は、「人の顔が見える」仕事に就きたいと考えていました。高校進学の際には、大学進学と就職、どちらにも強い商業高校に入学しました。ホテル業界への就職は、高校在学中に、友人に勧められたのがきっかけです。

ホテル「フロント」の魅力

堅い仕事だと思われるかもしれませんが、お客様のリクエストに、どのように対応するか考えることが楽しい仕事です。「食」に関する質問や、お部屋の御希望など様々なリクエストがありますが、お客様からお礼と言われると嬉しくなります。

株式会社ホスピタリティ
オペレーションズ
(スマイルホテルプレミアム
札幌すすきの)
上西 星矢さん
札幌東商業高校
流通経済科卒業

【図 38】おしごとガイドブック～中学生版～（5ページ目／全8ページ）



HOKKAIDO

洋上風力発電

北海道のしごと

先端技術とその効果



地中の作業では、電動で電線を通してくれるインバータウインチという最新機器を活用しています。あらかじめ設定した張力をオーバーするとブザーが鳴って自動停止するなど、安全な作業にとても役立っています。

今の仕事に就職するまで

中学校の先生から、「工業高校では、多くの国家資格などを取得でき、就職の選択肢も広がる」と勧められました。電気エネルギーは私たちの生活に欠かせないものですし、風車や発電所を建設することは、社会を支えているといったやりがいがあると思いました。



大きな達成感を得られる

風車の工事に携わることが多く、完成した風車を見ると大きな達成感があります。洋上風力発電の施設は、電線を地中に通す地中線路を使用しており、電柱や電線が見えなくなるなど、景観がよくなるほか、風や地震などの災害にも強いのが魅力です。



株式会社北海電工

石田 葵利さん

札幌工業高校
電気科卒業



HOKKAIDO

建設DX

北海道のしごと

先端技術とその効果



道路の上にクレーンなどを配置する作業計画を立てる際、3Dレーザースキャナーで現場周辺の3次元データを取得でき、電線にぶつからないかなど、安全に作業を進めるための高さの検討やイメージがしやすくなりました。

今の仕事に就職するまで

中学生の時に、姉が通う札幌工業高校の学校祭に参加し、地図に残る建設業の仕事に魅力を感じ、建築科に入学しました。入社理由は、建設業界で働く姉から「女性も多く、工事全体の流れを学びながら管理できるよ」と勧められた影響が大きいです。



現場監督の魅力

マンションなどの建築現場では、大工などの高度な技能をもつ職人さんが協力して作業しています。現場監督の仕事は、それらの職人さんを束ね、工程管理や安全確保をすることです。CADで図面を作成し、全体を見渡して大きな建築物をゼロから完成できることも魅力です。



株式会社砂子組

渡会 菜喜さん

札幌工業高校
建築科卒業



【図 39】おしごとガイドブック～中学生版～（6 ページ目／全 8 ページ）

HOKKAIDO

医療
北海道のしごと



看護師としての
やりがい

オペ室の担当として、最新の医療機器の操作方法など、勉強しなくてはならないことも多く大変ですが、高校で学んだ基礎知識や衛生管理が生きています。患者さんの痛みが和らいでいることを感じたときや、感謝の言葉をいただいたときに、大きなやりがいを感じます。

現在の勤務先を選んだ理由

看護師になるという夢をもち始めた頃、看護科のある高校で学ぶことが最短ルートだと知り、地元を離れ、美唄聖華高校に入学しました。救急医療に対応する総合病院で多くの生命を救いたいと考え、救急患者の対応数が多い今の病院への就職を決めました。



札幌東徳洲会病院
武藤 かりんさん
美唄聖華高校
衛生看護科卒業

HOKKAIDO

福祉
北海道のしごと



思いやりを感じる
先端技術

「見守り介護ロボット」により、職員が常に利用者様の状態を把握することができるようになるほか、夜間でも足音で睡眠を妨げないなど、利用者様にも私たちにも「思いやり」のある最新の技術が導入されています。このような技術の導入により、利用者様との信頼関係を築く時間が生まれます。

「HOL（ハピネスオブラيف）」がテーマ

「体の弱い母を支えたい」という思いで福祉の道を志しました。ここでは、利用者様との関わり方を学べるとともに、自分で考えたケアにも挑戦できるなど、職員として幸せを感じる職場を目指しています。尊敬する先輩に囲まれ、とても働き甲斐のある職場です。



社会福祉法人
北海道友愛福祉会
介護老人福祉施設
静苑ホーム
木下 扇さん
釧路高校
福祉科卒業

HOKKAIDO

ファッション
北海道のしごと



人と技術の
相乗効果

現在は、初めての配属先で得た服飾の知識と技術を生かしつつ、上司や部署の皆さんに積極的に相談したり、デザインの構想に「チャットGPT」といったAI技術も駆使し、自分のアイデアを形にしてプレゼンをしています。サポートし合える環境にも恵まれた職場だと実感しています。

自分のデザインしたものが形に

自分の夢のために、服飾が学べる江別高校に進学し、現在は、服飾雑貨の仕様を決めたり、発注するものを社内会議でプレゼンしたりする仕事をしています。自分で企画やデザインしたものが、北海道の店舗でも販売されることもあり、この仕事に強いやりがいを感じています。



株式会社ハニーズ
ホールディングス
河野 美友さん
江別高校
生活デザイン科
卒業

【図 40】おしごとガイドブック～中学生版～（7ページ目／全8ページ）

- 46 -

産学連携の学びを通じて北海道の未来を創る



このガイドブックを手にとった中学生の皆さんへ

私は、北海道教育委員会で、産学連携コーディネーターを務めている月館海斗といます。このガイドブックを手にとった皆さんが暮らしているここ北海道には、今、大きな変化が訪れています。洋上風力発電の導入・拡大や次世代半導体製造拠点の立地、宇宙関連産業の発展やDX(デジタルトランスフォーメーション)化などです。

こうした私たちの生活を支える技術は、日々進化を続けており、とりわけ2030年までの数年間は、大きな転換期になると言われています。新しい技術や産業が生まれている今だからこそ、中学生の皆さんには、未来を切り拓く大きなチャンスが広がっています。

このガイドブックは、中学生の皆さんに、北海道における産業構造の変化や新たな働き方とともに、専門高校(職業に関する学科を設置する高校)について理解してもらうことを目的として制作しました。

このガイドブックを通じて、皆さん一人一人が、専門高校について理解を深めるとともに、北海道の高いポテンシャルに気付き、将来は、本道の未来の創り手となることを期待しています。

産学連携コーディネーター 月館 海斗

専門高校の生徒3名による対談

高校生たちが語る 産業界とつながった学びと 成長の物語

静内農業高校生産科3年の三浦 聖晴さん、
札幌工業高校土木科3年の飯島 道大さん、
旭川商業高校流通ビジネス科3年の佐藤 藍さんが、
専門高校における学習内容や産業界と連携した取組などについて
語ってくれましたので紹介します。(進行:月館)



企業と一緒に取り組んだプロジェクトが 地域の持続可能な発展を支える!

月館 「皆さんは、専門高校でどのようなことを学んでいるんですか？」

三浦 「私は、馬に関することを専門的に学んでいます。本校は全国の公立高校で唯一、馬の出産から競りでの販売まで、一連のプロセスを学べる学校です。入学当初は、馬との信頼関係を築くことに苦労しましたが、企業の方と一緒に馬の管理方法を学んだことで、今では楽しい毎日を送っています。」

月館 「とてもニーズのあるスキルで、すぐに社会で役立つ学びですね。」

飯島 「私は手を動かして学べることに魅力を感じ、札幌工業高校に入学しました。新幹線のトンネル工事の現場を見学し、建設業は地域に貢献できるやりがいのある仕事だと感じました。また、授業で実際に公園整備などのまちづくりに関わることができました。」



産業界と連携した体験的な学びで、社会に役立つ実感を得られた!

佐藤 「私は、地元企業や旭川農業高校と一緒にご当地グルメ『あったか旭川まん』の商品開発と販売プロジェクトに参加しました。販売戦略を考える中で、在庫が少なくなった時には企業の方に、迅速に対応していただき、仕事にはスピード感と柔軟な対応力が求められることを実感しました。」

飯島 「私は空き地の利活用プロジェクトに参加して公園の整備を行い、工業高校で学んでいる設計や測量などの技術を生かす機会がありました。地元で役立っていることを実感でき、大きな自信になりました。」

月館 「皆さんは、それぞれの分野で、実際に社会で役立つ技術を学んでいて、社会に出る準備が整っているという感じがですね。専門高校での学びを、卒業後、どのように生かしていきたいと考えていますか。」



専門高校での実践的な学びで、 将来にわたって活躍できる!

三浦 「私は、競走馬を育てている方から学ぶ機会を通して、競走馬の調教やケアに携わりたいと思いました。高校で学んだ馬の知識を生かして、馬との信頼関係を築き、皆さんに夢を与えられる仕事に就くことが目標です。」

佐藤 「私は学校で学んだ販売や在庫管理のノウハウが役立つと思い、建設会社の事務職に就職します。」

飯島 「私は企業の方から学んだ土木の安全管理や施工技術をもっと深く学ぶため、工業系の大学に進学します。将来は、技術者として、災害に強いまちづくりを通して、地域に貢献したいです。」

月館 「皆さんが未来の北海道を支えている姿を見られるのを楽しみに待っています。今日は、ありがとうございました。」

高校生版

For
High School
Students

おしごとガイドブック
～2024年度版～



HOKKAIDO

★★★★★★★★

WORK

GUIDE



北海道のしごと



北海道教育庁
学校教育局
高校教育課

私たちの暮らす北海道は
たくさんの方の働きが支えています。
この冊子では北海道を支える産業の
仕事の様子を紹介します。

【図 42】おしごとガイドブック～高校生版～（表紙）

※高校生版は背表紙以外が中学生版と同一であるため、掲載を省略している。

産学連携の学びを通じて北海道の未来を創る



このガイドブックを手にとった高校生の皆さんへ

私は、北海道教育委員会で、産学連携コーディネーターを務めている月館海斗といいます。このガイドブックを手にとった皆さんが暮らしているここ北海道には、今、大きな変化が訪れています。洋上風力発電の導入・拡大や次世代半導体製造拠点の立地、宇宙関連産業の発展やDX(デジタルトランスフォーメーション)の導入などです。

こうした私たちの生活を支える技術は、日々進化を続けており、とりわけ2030年までの数年間は、大きな転換期になると言われています。新しい技術や産業が生まれている今だからこそ、高校生の皆さんには、未来を切り拓くチャンスが広がっています。

このガイドブックは、高校生の皆さんに、北海道における産業構造の変化や新たな働き方を理解してもらうために制作しました。皆さん一人一人が、それぞれの学校で北海道を支えている地域の企業の方々などと共に学び、北海道の高いポテンシャルに気付くとともに、先端技術や新たな産業に触れることで学びが深まり、将来は、本道の未来の創り手となることを期待しています。

産学連携コーディネーター 月館 海斗

北海道の未来と地域を支える人材育成の取組

デジタル関連産業の集積と全道展開

北海道の冷涼な気候や豊富な再生可能エネルギー、自然災害リスクの低さといった優位性をアピールし、半導体関連産業やデータセンターなど、デジタル関連産業の集積が進みます。

また、デジタル関連産業が全道に展開することで、地域の産業・経済が活性化します。



大学教授による半導体出前講座
(釧路工業高校)

再生可能エネルギーでゼロカーボン北海道を実現

全国唯一のポテンシャルを持つ再生可能エネルギーを活用し、洋上風力発電や太陽光発電、グリーン水素などの普及が進みます。

新たなエネルギーが人々の生活を豊かにし、ゼロカーボン北海道を実現するとともに、サステナブル(持続可能)な魅力ある北海道を実現します。



洋上風力発電施設の見学
(小樽未来創造高校)

持続可能な食を支えるスマート農業・水産業を実現

ICTを活用したスマート農業・水産業を推進し、省力化や高品質化、収益性の向上を目指します。作物や魚の生育状態などをデータで管理することで、効率的な生産が可能になり、魅力的で高品質な食を持続的に生産・供給します。



水温などを測定する漁業のスマート化
(厚岸翔洋高校)

自然や食、文化などを観光資源として活用

北海道の美しい四季や食の魅力などを生かした満足度の高い観光地づくりが進み、観光客の増加による経済効果が期待されます。

また、観光アプリやデジタル技術を取り入れたスマートツーリズムが進みます。



どさんこプラザでの販売会
(更別農業高校)

安心して暮らせる未来の医療と福祉

医療分野では、遠隔医療などの医療のデジタル化が進み、地域における医療提供体制が充実します。また、再生医療をはじめとする高度先進医療が充実します。

介護分野もDX化が進み、誰もが安心して暮らせる環境づくりが進みます。



看護師への自覚を促す戴帽式
(美唄聖華高校)

新幹線の札幌延伸と交通ネットワークの強化

北海道新幹線の札幌延伸により、函館から札幌への移動時間が大幅に短縮されます。

また、広域な北海道において、持続可能なまちづくりや交通ネットワークが強化され、道外・国外からの観光客にとって魅力的な北海道が、更に身近になります。



新幹線トンネル工事の見学
(札幌工業高校)

【図43】 おしごとガイドブック～高校生版～（背表紙）

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」が、専門高校と産業界のサステナブルな連携に資するよう、事業所と専門高校を結ぶ「産業実務家教員リスト」を作成します。

専門高校とは農業・工業・商業・水産・家庭・福祉・看護に関する職業学科を持つ、特定の職業や学問分野に特化した高校のことです。



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 産業実務家教員

大募集!!!



【産業実務家教員とは?】

専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所のことを本事業では「産業実務家教員」と呼んでいます。

生徒に対して高度な知識・技術や、実践的・体験的な学習機会を提供する事を目的としており、持続的で専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係を構築することを目指します。

期待される連携の例

出前授業

先生や
生徒への
技術指導

職場
見学等の
受入れ

機材の
貸与

【申込締切】

令和7年(2025年)2月14日(金)

【申込に当たって】

- 連携の際に、交通費や謝礼などの支払いはありません。
- 個人又は営業所や工場などの事業所単位で登録してください。

【登録方法】

下の2次元コードを読み込むか、URLにアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/DBKr921RfYCVkroS8>



登録フォームは
こちら

所要時間は10分程度です。

こんな方の登録をお待ちしています

- 高校と連携した取組を行いたい、どこに連絡をするべきか分からない方。
- 高校生に自社や業界の業務内容を是非知ってもらいたいと考えている方。
- 会社に高校生を招いて、職場の意識改革を行いたいと考えている方。
- 業界の発展のために、高校生を積極的に指導したいと考えている方。



登録されたらどうなるの?

登録していただいた皆様の情報を集めた「産業実務家教員リスト」を作成し、全道の専門高校に配付します。

専門高校は必要に応じて各学校のニーズに合わせて、リストの中の産業実務家教員に直接連絡を取り、具体的な連携の実施に向けて、打合せを重ね、連携した取組を実施します。



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」とは?

文部科学省の事業である「マイスター・ハイスクール普及促進事業」として北海道が採択されたプロジェクトです。北海道内の専門高校と地域産業界の連携を強化し、次世代の産業を支える人材育成を目指す取組です。専門高校の生徒が実践的な学びを通じて最新の産業技術や知識を習得できる環境を整えることを目的としています。



←「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の取組はこちらのWebページから

【問い合わせ先】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

Tel : 011-204-5705 Mail: kitahori.tomotaka@pref.hokkaido.lg.jp



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

【図 44】チラシ（産業実務家教員の募集）

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」



産業実務家教員リスト



北海道教育庁学校教育局高校教育課

【令和7年3月27日作成】

【図 45】産業実務家教員リスト（表紙）

目次

- 「産業実務家教員」一覧・・・・・・・・・・ P 1
- 「産業実務家教員」リスト・・・・・・・・・・ P 3

「産業実務家教員リスト」について

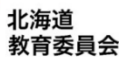
- 「産業実務家教員リスト」は、専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所のリストです。生徒に対して、高度な知識・技術や実践的・体験的な学習機会を提供する事を目的としています。
- このリストは、専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる持続的な関係を構築することを目指しています。地域産業の人材育成に向け、産業実務家教員と学校が意見を交わしながら、よりよい連携が行われることを期待しています。
- 産業実務家教員と連携を希望する学校は、リスト内の担当者・連絡先に直接連絡をしてください。教育庁に連絡する必要はありません。
- 交通費や謝礼などの支払いは原則ありません。ただし、連携内容によっては、材料費など実費がかかる場合がありますので、詳細については産業実務家教員と連絡を取り確認してください。

【図 46】産業実務家教員リスト（目次）

[illegible]

【図 47】 産業実務家教員リスト（掲載イメージ）

※個人情報保護のため、リストの様式のみ掲載している。



【図 48】産業実務家教員リスト（背表紙）

(3) 生徒を対象とした新たな産業や技術革新に対応した取組

ア 半導体に関する出前授業等

道経済部と連携し、大学教授等を講師に招いた半導体に関する出前授業を、専門高校を含む公立高校 23 校で実施した。

また、地域の企業と連携し、半導体に関するイベント「苫工半導体展」を開催している苫小牧工業高校の取組を、専門高校や産業界に好事例として広く周知した。



出前授業の様子（釧路工業高校）



小中学生向け
プログラミング
教室と同時開催し、
多くの方が来場



「苫工半導体展」チラシ（左）と当日の様子

イ 洋上風力発電に関する出前授業・見学バスツアー

道経済部と連携し、メンテナンス等の人材育成・確保に資する取組として、工業高校や水産高校を対象に、オンラインを併用した出前授業とバスツアー（3校）を実施した。



出前授業（北見工業高校）の様子



見学バスツアー（室蘭工業高校）の様子

(4) 各種セミナー

関係機関等と連携し、教員や産業界関係者を対象に各種オンラインセミナーを開催した。

ア 建設 DX 理解促進セミナー [令和6年9月26日(木)開催]

道建設部と連携し、高校教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図ることを目的に開催した。

高等学校において進路指導を担当する教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図るため、建設DX理解促進セミナーを開催します。



教員向け建設DX理解促進セミナー

令和6年
(2024年)

9月26日(木) 14:00~15:30

※Zoomによる
オンライン

内 容

- ◆講 演 (14:00~14:30)
 - ・演 題: 「DX化に伴い変革が進む建設業における業務内容と働き方」
 - ・講 師: 荒井建設株式会社 取締役土木技術部長 岡崎 竜志 氏
- ◆説 明 (14:30~14:45)
 - ・内 容: 「建設業における新しい職域『建設ディレクター』について」
 - ・説明者: 一般社団法人建設ディレクター協会 藤田 歩実 氏
- ◆説 明 (14:45~15:00)
 - ・内 容: 「建設ディレクターの育成について」
 - ・説明者: ヤマグチ株式会社土木部工事管理室
ビジネスイノベーション推進課長 馬場 洋介 氏
- ◆体験談 (15:00~15:10)
 - ・内 容: 「建設ディレクターとしてのやりがい」
 - ・発表者: ヤマグチ株式会社土木部工事管理室 長坪 和 氏 (令和元年度工業高校建築科卒)
原田 杏瑞 氏 (令和2年度総合学科卒)
- ◆事例発表 (15:10~15:30)
 - ・内 容: 「地元建設業協会と連携した企業実習の取組」
 - ・発表者: 北海道室蘭工業高等学校環境土木科長 鈴木 圭吾 教諭

参加対象

- 公立高校等において進路指導を担当する教諭、建設分野を担当する教諭等
- 各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザー

申込方法・申込〆切

各教育局からの通知に従い申し込んでください。

【主催】建設部建設政策局建設管理課、教育庁学校教育局高校教育課
お問合せ先 TEL 011-204-5810 (建設管理課)



【図 49】チラシ (建設 DX 理解促進セミナー)

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「建設DX理解促進セミナー」 セミナーレポート



令和6年9月26日（木）開催

高等学校において進路指導を担当する教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図るため、道建設部と連携し、本道初開催となるオンラインセミナーを開催しました。

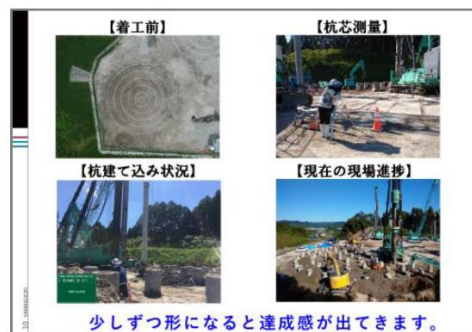
全道から学校関係者19名、教育委員会関係者14名の合わせて33名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、進路指導等の参考にしてください。

セミナーの内容

- ◆講演（14:00～14:30）
 - ・演題：「DX化に伴い変革が進む建設業における業務内容と働き方」
 - ・講師：荒井建設株式会社取締役土木技術部長 岡崎 竜志 氏
- ◆説明（14:30～14:45）
 - ・内容：「建設業における新しい職域『建設ディレクター』について」
 - ・説明者：一般社団法人建設ディレクター協会 藤田 歩実 氏
- ◆説明（14:45～15:00）
 - ・内容：「建設ディレクターの育成について」
 - ・説明者：ヤマグチ株式会社土木部工事管理室ビジネスイノベーション推進課長 馬場 洋介 氏
- ◆体験談（15:00～15:10）
 - ・内容：「建設ディレクターとしてのやりがい」
 - ・説明者：ヤマグチ株式会社土木部工事管理室 長坪 和 氏、原田 杏瑞 氏
- ◆事例発表（15:10～15:30）
 - ・内容：「地元建設業協会と連携した企業実習の取組」
 - ・発表者：北海道室蘭工業高等学校教諭（環境土木科長） 鈴木 圭吾 氏



講演資料（荒井建設(株)）



体験談資料（ヤマグチ(株)）

セミナー参加者の声

【アンケート結果（一部）】※回答数8

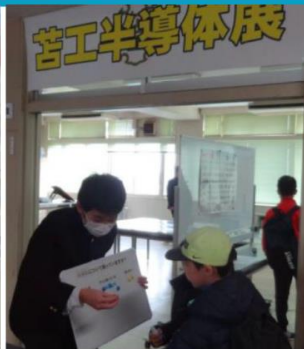
- ▶ 今後の進路指導での参考にさせていただきたい。
- ▶ 実際に働いている資格保有者の方の話を聞いていて、職業人としての在り方が素晴らしいと思った。また、建設業界での女性活躍の観点からも、胸躍るものがあった。
- ▶ 「建設ディレクターとして働きながら施工管理者を目指す」というキャリアデザインを描いている方の話を聞き、自律的にキャリアを構築されていて、建設業界全体における好例になると思った。今後も様々な事例があると思うので、こうした機会に紹介いただきたい。
- ▶ 建設業のDX化を具体的に理解するとともに、建設ディレクターといった業務の存在を知ることができた。今後の個人面談や進路講話において、生かしていきたい。

【図 50】セミナーレポート（建設DX理解促進セミナー）

イ 半導体理解促進セミナー〔令和7年1月14日（火）開催〕

道経済部や半導体の先進地である熊本県教育庁と連携し、高校教員等が先端半導体に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった半導体人材育成の取組を推進することを目的に開催した。

高校教員等が先端半導体に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった半導体人材育成の取組を推進するため、セミナーを開催します。



マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

教員・
企業向け

半導体理解促進セミナー

本道
初開催

令和7年
(2025年)

1月14日（火）14:00~15:30

※Zoomによる
オンライン

内 容

◆講 演 (14:00~14:30)

- ・演 題：「半導体の今と未来について」
- ・講 師：北海道大学総長補佐量子集積エレクトロニクス研究センター教授 葛西 誠也 氏

◆説 明 (14:30~14:50)

- ・内 容：「熊本県における半導体関連産業を支える人材育成の取組」
- ・説明者：熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課産業教育指導班主幹 増田 健治 氏

◆体験談 (15:00~15:10)

- ・内 容：「半導体製造装置メンテナンスエンジニアの仕事とやりがい」
- ・説明者：ミツミ電機株式会社千歳事業所ウエファ製造部生産設備課 上野 龍之介 氏
(北海道名寄産業高等学校電子機械科：平成29年3月卒業)

◆事例発表 (15:10~15:30)

- ・内 容：「企業と連携して取り組む半導体を通じたSTEAM教育の実践」
- ・発表者：北海道苫小牧工業高等学校情報技術科教諭 田中 俊正 氏

参加対象

- ▼公立高校等において進路指導、理科及び工業科等の教科指導を担当する教諭等
- ▼各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザー
- ▼半導体関連産業の企業関係者及び経済団体関係者等

申込方法

右の2次元コードから専用フォームにアクセスし、必要な情報を入力してください。（定員300台）



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の情報はここから



【主催】北海道教育庁学校教育局高校教育課（お問合せ先：TEL 011-204-5705）
北海道経済部産業振興局次世代半導体戦略室



【図 51】 チラシ（半導体理解促進セミナー）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「半導体理解促進セミナー」 セミナーレポート



令和7年1月14日（火）開催

高校教員等が先端半導体に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった半導体人材育成の取組を推進するため、道経済部と連携し、本道初開催となるオンラインセミナーを開催しました。

道内はもとより、全国から学校関係者58名、半導体関連企業・経済団体関係者16名、教育委員会関係者20名の合わせて94名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、参考にしてください。

セミナーの内容

- ◆講 演（14:00～14:30）
 - ・演 題：「半導体の今と未来について」
 - ・講 師：北海道大学総長補佐量子集積エレクトロニクス研究センター教授 葛西 誠也 氏
- ◆説 明（14:30～14:50）
 - ・内 容：「熊本県における半導体関連産業を支える人材育成の取組」
 - ・説明者：熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課産業教育指導班主幹 増田 健治 氏
- ◆体験談（15:00～15:10）
 - ・内 容：「半導体製造装置メンテナンスエンジニアの仕事とやりがい」
 - ・説明者：ミツミ電機株式会社千歳事業所ウエファ製造部生産設備課 上野 龍之介 氏
- ◆事例発表（15:10～15:30）
 - ・内 容：「企業と連携して取り組む半導体を通じたSTEAM教育の実践」
 - ・発表者：北海道苫小牧工業高等学校情報技術科教諭 田中 俊正 氏



説明資料（熊本県教育庁）



事例発表資料（苫小牧工業高校）

セミナー参加者の声

- ▶ 半導体の概要や現在の実情及び課題などについて、分かりやすく説明していただけた。
- ▶ 学校や企業、地域とどのように連携をとっていくかの参考となる取組が具体的に聞けた。
- ▶ 熊本県の人材育成における取組では、企業見学に加え、教員や生徒の数日間にわたる研修が、生徒の進路決定にも影響を及ぼす活動であると感じた。
- ▶ 苫小牧工業高校の取組では、生徒の興味や意欲が高まり、企業だけでなく地域全体との連携が重要であることを再認識した。

【アンケート結果（一部）】※回答数33

① セミナーは半導体の理解促進に役立ったか。



- ◎ 「とても役立った」 64%
- 「役立った」 33%
- △ 「少し役立った」 3%

② セミナーの成果を今後、どのように生かしていくか。（複数回答可）

- キャリア教育：16 進路指導：13
- 教科指導：14 企業との連携：12

【図 52】 セミナーレポート（半導体理解促進セミナー）

ウ 観光産業理解促進セミナー [令和7年2月19日(水)開催]

高校教員等が観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった観光産業を担う人材育成を推進することを目的に開催した。

観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった観光産業を担う人材育成の取組を推進します。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

観光産業理解促進セミナー

Zoomを利用したオンラインセミナーです

開催日時

【開催日時】
令和7年(2025年)2月19日(水) 14:00～15:35

【参加対象】

- (1) 公立高校等において進路指導を担当する教諭等
- (2) 公立高校等において商業や総合的な探究の時間等で観光に関する取組を担当する教諭等
- (3) 各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザー

【申込み方法】
右の2次元コードを読み込むか、URLにアクセスして、ウェブページ上で回答してください。
(URL) <https://forms.gle/RUbQbCGaNa4ifSAf6>

申込フォーム

第1部

14:05～14:55

講師 「北海道の観光における現状と人材育成」
公益社団法人北海道観光機構 事業企画本部副本部長 生川 幸伸 氏

第2部

14:55～15:35

講師 「小樽市の観光DX推進に関する取組」
一般社団法人小樽観光協会 事務局次長 永岡 朋子 氏

【問合せ先】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
Tel : 011-204-5705

【図 53】 チラシ（観光産業理解促進セミナー）



高校教員等が観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった観光産業を担う人材育成の取組を推進するため、本道初開催となるオンラインセミナーを開催しました。

道内はもとより、全国から学校関係者19名、教育委員会関係者17名の合わせて36名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、進路指導等の参考にしてください。

◆講演① (14:05～14:45)

- ・演 題：「北海道の観光における現状と人材育成」
・講 師：公益社団法人北海道観光機構 事業企画本部副本部長 生川 幸伸 氏

◆講演② (14:55~15:25)

- ・演 題：「小樽市の観光DX推進に関する取組」
・講 師：一般社団法人小樽観光協会 事務局次長 永岡 朋子 氏

観光関連人材の育成

■観光関連人材の育成

目的：アットホームを含めた観光需要に対応できる人材の能力向上

担当事業	内容	効果
観光協会、自治体職員 (DMO等)	観光員研修 (集約型)	マーケティングによる地域・市場セグメントの顕微
交通機関関係者 観光協会の関係者 アットホーム事業員	観光員研修 (派遣型)	・語学外国人受け入れ対応強化 (語・地域) 地の特性の活用等 ・語学研修
通訳案内士	外国人ガイド育成研修、受験対策講座	通訳案内士資格の取得
大学、大学院生	北海道観光大使	北海道観光に貢献する研究
観光関係者	バリアフリー化の推進	観光の基盤強化と取得
アドマンチャーター観光ガイドを募集する道民	北海道観光大使、北海道アットホームガイド資格取得に向けた研修	北海道アットホーム観光大使の取得
アットホームガイド	国際資格 (外国語、サステナビリティ、ファーストアイド、安全衛生等) の取得 元・元研修 (北海道アットホーム)	北海道A7ガイドの資格取得 元・元研修 (北海道アットホーム)
アットホームガイド	海外研修制度 (先進地での研修)	国際レベルの高度な技術の獲得



通訳案内士研修



バリアフリーノフハ
ワ研修



アットホーム
観光大使
研修



北海道A7ガイド
資格取得



海外研修制度
(先進地での研修)



説明資料（北海道観光機構）

ファンコミュニティの構築・活性化 ①

ファンコミュニティの構築・活性化により、地域と小幡ファンの双方向けコミュニケーションをはかり、マーケティング施策のインパクトとしての活用、さらには再来訪者の可視化に貢献する。

キタル・オタル HUB!

今までの取り組み

今、この取り組みが実現したいとしている実行指針のターゲットポイントを中心に、ファンコミュニティサイトの活用促進により、入会費の減額を促す。

「関わり」を促す

プラットフォーム提供側の存在意識、地域の認知度を高めながら、ファンコミュニティの活性化

以下にデータを収集
認知度向上（匿名アンケート）、年齢、性別、居住地、メールアドレス
登録者数、参加回（回数）を年々増加
心身の健康：訪問回数、登録費、興味関心（本格的な）の構築

キタル・オタル HUB!

新設されたファン

のコミュニティ化

再訪促進を可視化

ファンコミュニティの活用促進

認知度向上
登録者数向上
参加回数向上
登録費向上
興味関心向上

マーケティングインパクト

説明資料（小樽市観光協会）

- ▶ 観光産業の現状と人材育成の課題について学ぶことができた。
- ▶ 国内でもブランド力のある観光地の振興策の概略を知識として得ることができ、生徒に還元できる内容だった。
- ▶ 商業教育やキャリア教育の方向性を検討する上で、実際の観光ビジネスの状況がよく理解できた。
- ▶ ファンコミュニティやデータ収集・分析について、観光ビジネスの学びの中で実例として知ることができた。
- ▶ DXを活用したビジネスモデルや地域の将来構想とからめた観光ビジネスの推進など、今後の商業教育に取り入れたいと思った。

【アンケート結果（一部）】※回答数20

- ① セミナーは観光産業の理解促進に役立ったか。 ② セミナーの成果を今後、どのように生かしていくか。（複数回答可）



◎「とても役立った」 50%
○「役立った」 45%
△「少し役立った」 5%

キャリア教育：8 進路指導：6
教科指導：14 企業との連携：10

【図 54】セミナーレポート（観光産業理解促進セミナー）

工 洋上風力発電理解促進セミナー [令和7年2月25日(火)開催]

高校教員等が洋上風力発電に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界が一体となった洋上風力発電に関する人材育成の取組を推進することを目的に開催した。

専門高校の力が
発揮できる

課題と現実
を理解する

洋上風力発電 理解促進セミナー

これからの
北海道の洋上風力発電に係る人材育成は
どのようなになっていくのか

講演1
「洋上風力発電
を取り巻く現状と
人材育成」

講演2
「洋上風力発電の
推進と漁業協調：
発電事業と漁業が
共存するために」

質疑応答

日本海洋事業株式会社
運航事業管掌運航事業部長委嘱
常務取締役
横田 哲也 氏

長崎大学
海洋未来イノベーション機構
環東シナ海環境資源研究
センター長 河邊 玲 教授

オンライン (Zoom)
日時：令和7年2月25日(火)
14:00~15:35 (接続確認13:30~)
ID:854 0686 3426 パスコード：809170
お申込みは右の二次元バーコードから
(URL:<https://forms.gle/663wYbeRioUqxbKr6>)

北海道教育委員会
HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

【図 55】チラシ (洋上風力発電理解促進セミナー)

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「洋上風力発電理解促進セミナー」 セミナーレポート



令和7年2月25日（火）開催

高校教員等が洋上風力発電に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界が一体となった洋上風力発電に関する人材育成の取組を推進するため、オンラインセミナーを開催しました。

道内はもとより、全国から学校関係者21名、関連企業等関係者4名、教育委員会関係者等10名の合わせて35名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、進路指導等の参考にしてください。

セミナーの内容

◆講演①（14:05～14:35）

・演 題：「洋上風力発電を取り巻く現状と人材育成」

・講 師：日本海洋事業株式会社運航事業管掌運航事業部長委嘱常務取締役 横田 哲也 氏

◆講演②（14:35～15:15）

・内 容：「洋上風力発電の推進と漁業協調：発電事業と漁業が共存するために」

・説明者：長崎大学海洋未来イノベーション機構 環東シナ海環境資源研究センター教授 河邊 玲 氏

◆質疑応答（15:15～15:35）



講演①資料（日本海洋事業 横田氏）



講演②資料（長崎大学教授 河邊氏）

セミナー参加者の声

- ▶ 洋上風力発電に必要な船舶や、再エネ海域利用法と漁業のあり方について理解を深めることができた。
- ▶ 必要となる人材の求人者数は、雇用の新たな形として、本県でも参考にしたいと考えている。
- ▶ 水産業との共存の話では、学術的な視点も踏まえ、今後、検証する必要性があると強く感じた。
- ▶ 洋上風力事業の経緯や現状を丁寧に説明されていて、必要な人材やスキルのまとめも含めて有益な情報だと感じた。
- ▶ 漁業協調については、これまでのデータ検証に基づく考察や、今後、北海道でも同様に調査を漁業関係者と共に進めていく重要性が認識できて、非常に勉強になった。
- ▶ 洋上風力発電の現場や、これに伴い必要になる職種及び今後どのような人材が求められるのか知ることができた。

【アンケート結果（一部）】※回答数21

① セミナーは洋上風力発電の理解促進に役立ったか。



◎「とても役立った」 47%
○「役立った」 38%
△「少し役立った」 15%

② セミナーの成果を今後、どのように生かしていくか。（複数回答可）

キャリア教育：9 進路指導：8
教科指導：11 企業との連携：7

【図 56】セミナーレポート（洋上風力発電理解促進セミナー）

オ 職業学科理解促進セミナー

中学校教員の専門高校に関する理解を深め、中学校における進路指導の一層の充実を図るとともに、専門高校の価値や魅力を発信することを目的に開催した。

中学校の先生方の職業学科に関する理解を深め、進路指導の一層の充実を図ることを目的に、職業学科理解促進セミナーを開催します。

中学生の進路指導に役立つ

マイスター・ハイスクール普及促進事業

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

中学校教員向け

職業学科理解促進セミナー

商業

家庭

農業

工業

看護

水産

福祉



令和6年
(2024年)

10月7日(月) 14:30~16:30

※Zoomによる
オンライン

日程

- (1) 農業科 (14:30~14:45)
- (2) 工業科 (14:45~15:00)
- (3) 商業科 (15:00~15:15)
- ――15分休憩――

- (4) 水産科 (15:30~15:45)
- (5) 家庭科 (15:45~16:00)
- (6) 看護科 (16:00~16:15)
- (7) 福祉科 (16:15~16:30)

POINT

01

参加者は出入り自由

POINT

02

小学科の違いを理解できる

参加対象

- (1) 中学校教員で参加を希望する者
- (2) 市町村教育委員会職員で参加を希望する者

申込方法・申込〆切

右の2次元コードから、Zoomに接続する端末一台ごとに、参加申込みを行って下さい。【9月30日(月)〆切】



【主催】

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係



【図 57】 チラシ（職業学科理解促進セミナー）

(5) ONE-TEAM コミッティ

産学連携コーディネーターを含む有識者 8 名（委員名簿は次ページに掲載）で構成し、参集形式により、年 3 回の会議を開催した。本プロジェクトの円滑な推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言をいただいた。

〔第 1 回（6 月）〕 会場：静内農業高校

- ▶ 事業計画の具体的な検討等
- ▶ 拠点校（静内農業高校）からの情報発信
- ▶ 実習等の視察



〔第 2 回（10 月）〕 会場：札幌工業高校

- ▶ 事業 1 年目の中間報告、各種イベント等の検討
- ▶ 実習等の視察



〔第 3 回（2 月）〕 会場：道庁別館

- ▶ 産学連携カンファレンスの検討等
- ▶ 今年度の取組の評価、次年度の計画の検討

令和6年度 ONE-TEAM コミッティ委員名簿

氏名	所属・職	役割
月館 海斗	株式会社すみか・代表取締役	産学連携コーディネーター
岡部 善平	小樽商科大学・教授	
百瀬 康弘	北海道経済連合会・常務理事	
和田 順子	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター・事業戦略統括部コーディネーター	
山上 朝香	北海道農政部生産振興局技術普及課・首席普及指導員	
矢野 伸一	北海道経済部産業振興局産業振興課スタートアップ推進室・参事	
桑名 真人	一般社団法人北海道農産協会・てん菜部長	
赤穂 悦生	北海道静内農業高等学校・校長	令和6年度拠点校

(6) 各種調査

ア 学校ヒアリング調査

本プロジェクトを専門高校にとって有益な取組とするため、専門高校を対象に、産学連携についての現状や考え方などを把握するヒアリング調査を実施した。(回答数 159)

調査結果は、「ONE-TEAM ニュース第2号」(19 ページ参照)に掲載し、学校と産業界で共有することで、両者が産学連携の成果や課題等を把握できた。

イ 企業ヒアリング調査

北海道産業教育審議会と連携し、専門高校や経済団体等を通じて、企業を対象とした産学連携に関する調査を実施した。(回答数 224)

企業実習やインターンシップの受入れ状況のほか、企業側の産学連携における成果や課題等を把握できた。内容及び分析結果については、令和7年11月に北海道産業教育審議会から建議として報告される予定である。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入など、産業構造が大きく変化している中、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する。



専門高校と産業界の連携における課題

- ①連携した取組が少ない
- ②連携の進め方や配慮点が不明
- ③ニーズ等が異なり、連携が進みづらい
- ④教員が多忙なため企業等と調整不足

横と縦の系で
専門高校の
つながりを支援

横のつながり

専門高校が**学部の垣根を越えて連携**し、効果的な職業人材育成システムを、他の専門高校に**自主可能な形で横展開**

縦のつながり

専門高校と**企業や中学校との縦の連携**を促進するとともに、**地域創生**を担う産業人材を育成している**専門高校の価値や魅力**を広く発信

ONE-TEAMコミュニティの発足

有識者で構成し、本プロジェクトの推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言



※委員会

本プロジェクトのゴールイメージ



※持続可能な、ずっと続いていく

KPI

- ① 産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合（道立の専門高校56校）
【R5: 7%（実績値）▶ R6: 14% ▶ R7: 50%】
- ② 産業界の有識者を招いた協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を行っている専門高校の割合（道立の専門高校のうち、農工商水54校）
【R5: 54%（実績値）▶ R6: 61% ▶ R7: 91%】

産学連携コーディネーターの役割



◆人のつながりを生む機会を創出
産学連携カンファレンスなど、産学連携に資する機会を創出し、専門高校と産業界等を、学科の特性に応じて**人的につなげる**

産業界実務家教員リストの作成

◆産業界が不要で出前授業等が可能な**職業人をデータベース化**したリストを作成し、持続可能な産学連携を促進

【データベース】



新たな産業界や専門高校への理解促進

DXを活用して働く専門高校の卒業生や、産学連携、学科の垣根を越えた連携などの事例を紹介する**おしごとガイドブック**を制作し、中高生や経済団体に配付

管理機関の役割

- ◆ONE-TEAMコミュニティを設置し、広域分散型の本道における産学連携の推進に向けて、拠点校と協力しながらプロジェクトを展開
- ◆産学連携コーディネーターを配置し、専門高校の産学連携を支援
- ◆専門高校を拠点とした**地域創生**や**地域人材の育成**に資する取組を推進
- ◆**専門高校の価値や魅力**を産業界や中学校に普及・啓発

横展開のイメージと拠点校の役割



【図58】 令和6年度成果概要図（1ページ目／全3ページ）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

専門高校の **横** のつながり (学科の垣根を越えた連携) ✕ **縦** のつながり (産業界や中学校との連携) を結んだ12本の糸 

1 キックオフミーティング

【主な内容】

- ◆ 専門高校の代表教員が参集し、本プロジェクトの概要等の説明後、R6拠点校である静内農業高校による実践発表
- ◆ 学科の垣根を越えた教員による協議

【成果】

- 静内農業高校のこれまでの取組と、本プロジェクトで目指す姿を専門高校の教員が共有



産学連携コーディネーターのファシリテーションによる協議

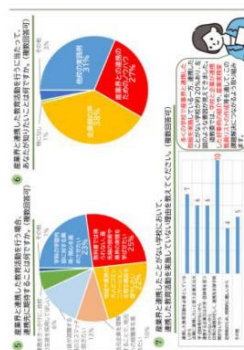
3 学校ヒアリング調査

【主な内容】

- ◆ 本プロジェクトを専門高校にとって有益な取組とするため、専門高校を対象に、産学連携についての現状や考え方を把握するヒアリング調査を実施 (回答数159)

【成果】

- 産学連携の現状や課題を把握・共有
- 調査結果を踏まえた各種イベント等における講師の選定や協議題の設定等



学校ヒアリング調査の結果

5 新たな産産を学ぶ機会の創出

【主な内容】

- ◆ 道経済部と連携し、出前授業 (半導体、洋上風力発電) や洋上風力発電施設の見学バスツアーを実施
- ◆ 企業や自治体と連携し、校内で半導体展を開催している工業高校の先進的な事例を広く発信

【成果】

- 新たな産産や働き方に関する生徒や教員の理解促進



洋上風力発電施設の見学

2 ONE-TEAMコミュニティ (事業運営委員会)

【主な内容】

- ◆ 有識者6名で構成し、本プロジェクトの円滑な推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言 (年3回開催)

【成果】

- 委員による助言を踏まえて、各種イベントや次年度の取組を計画



第1回は静内農業高校で開催

4 ONE-TEAMニュース

【主な内容】

- ◆ 本プロジェクトの取組や専門高校における産学連携の好事例、各種イベント等の情報を掲載し、専門高校や産業界に広く発信

【成果】

- 専門高校や産業界の情報を広く普及・啓発
- 産業界関係者からは「専門高校の取組が知れるので発行が楽しみ」との声が多数



ONE-TEAMニュース (第3号)

6 各種教員向けセミナー

【主な内容】

- ◆ 道の建設部や経済部、建設業協会等の関係機関と連携し、教員向けセミナーを開催
 - ▶ 建設DX (33名) ▶ 半導体 (94名)
 - ▶ 観光産業 (36名) ▶ 洋上風力発電 (35名)

【成果】

- 新たな産産への教員等の理解促進
- 全国から多くの参加があり、道外の先進地域とのネットワークが強化



半導体理解促進セミナー (チラシ)

【図 59】 令和6年度成果概要図 (2ページ目/全3ページ)

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

7 中学校に向けた専門高校の魅力発信

【主な内容】

- ◆中学生やその保護者、中学校教員の専門高校に関する理解を深めるため、「職業学科理解推進ガイド」を発行
- ◆中学校教員を対象に、オンラインで「職業学科理解促進セミナー」を初開催

【成果】

- 中学生や教員等の専門高校に関する理解を促進
- 専門高校の価値や魅力の発信



職業学科理解推進ガイド

9 高校生チャレンジ in どさんこプラザ

【主な内容】

- ◆農業・商業・水産科の生徒が、学科の垣根を越えて連携し、企業と協働で開発した商品やJRL札幌市内にある北海道のアナテナショップ「どさんこプラザ札幌店」で販売（参加校数：7校、出品商品数：9品）

【成果】

- 6次産業化を体験的に学ぶ機会を創出
- 専門高校の価値や魅力を発信



販売を担当した生徒達

11 おしごとガイドブック～2024年度版～

【主な内容】

- ◆中高生が新たな産業や働き方に関する理解を深めて職業を選択することや、中学生が専門高校の魅力や学習内容等を踏まえて進路を選択することをねらいとして、ガイドブックを制作し、高校1、2年生に配付

【成果】

- 中高生やその保護者の新たな産業や専門高校への理解を促進



おしごとガイドブック～2024年度版～

8 産学連携シンポジウム

【主な内容】

- ◆教員や産業界関係者合わせて137名が参加し、静内農業高校の産学連携の事例を共有
- ◆生徒3名と企業・経済団体等の関係者5名によるサステナブルな産学連携をテーマとしたパネルディスカッション

【成果】

- 教員と産業界関係者が、産学連携のノウハウや持続可能な産学連携の在り方を共有



パネルディスカッションの様子

10 産学連携カンファレンス

【主な内容】

- ◆専門高校の教員85名と生徒20名、産業界関係者68名が参集し、厚岸翔洋高校（マイルス・ハイスクール）による実践発表等
- ◆専門教員や産業界関係者に生徒が加わり、産学連携をテーマとしたグループ協議

【成果】

- 生徒の実体験を参考にしながら、参加者が持続可能な産学連携の方法等を共有



生徒、教員、産業界関係者による協議

12 産業実務家教員リスト

【主な内容】

- ◆出前授業や現場見学など、謝金や旅費等が不要で、専門高校との連携が可能な企業等の情報を掲載したリストを作成し、専門高校に配付（掲載数：36事業所等）

【成果】

- 学校にとって負担の少ない産業界とのサステナブルな連携が実現



産業実務家教員（募集チラシ）

事業1年目における【成果〇】と【課題△】

- 【成果〇】 静内農業高校の産学連携のノウハウを普及
- 【課題△】 専門高校が分散している広域な北海道で、各地域の産学連携を推進する体制の整備

対応

事業2年目における体制の強化

- ◆北海道を4圏域に分割し、各圏域に拠点を配置
- ◆各圏域ごとに参集によるイベントの開催が可能になり、地域に根差した産学連携の推進が可能

将来

本プロジェクトで目指す姿

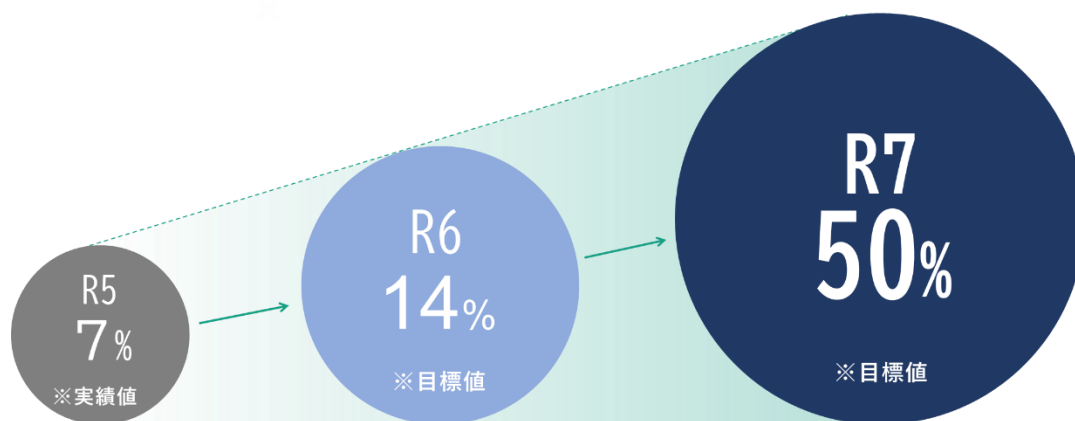
- 地域を支える最先端の職業人材の持続的な育成
- 地域創生の実現

【図 60】 令和6年度成果概要図（3ページ目／全3ページ）

5 成果指標

【指標①】

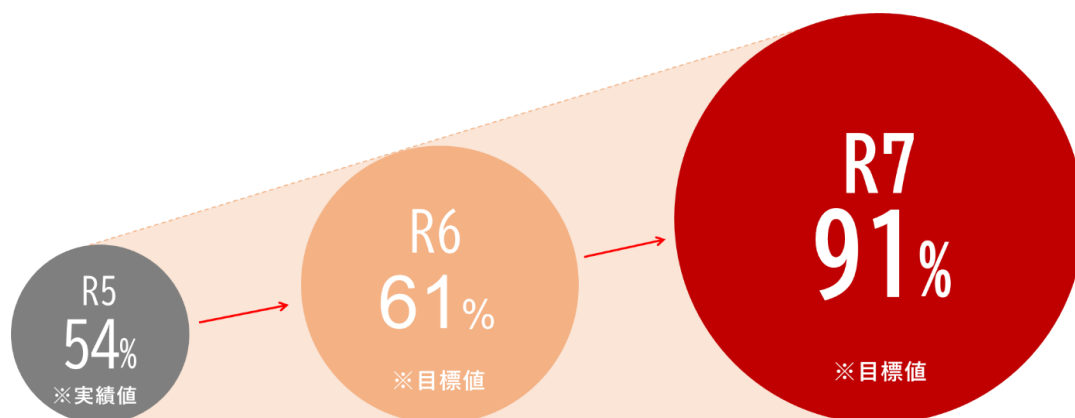
コンソーシアムの構築や産業実務家教員による指導の教育課程への位置付けなど、
産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合
(対象) 道立の専門高校 (56 校)



※令和6年度の実績値は令和7年5月に集計

【指標②】

産業界の有識者を招いた協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら
教育活動を行っている専門高校の割合
(対象) 道立の専門高校のうち、農業科・工業科・商業科・水産科 (54 校)



※令和6年度の実績値は令和7年5月に集計

6 参考資料

(1) 北海道創生ジャーナル「創る」第29号(令和7年3月18日発行)

創る ◆ 地域を創る人づくり

第二弾 「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

地域創生を支える専門高校

北海道が人口減少等の課題を乗り越え、地域創生を実現していくためには、地域の人材育成を担う教育の役割が重要であり、北海道教育委員会では、生徒が、地域の人々の生き方や産業などに触れることを通じて、地域への理解を深め、自らの生き方について考えるなどの体験的な学習の充実に努めています。

とりわけ、地域創生を支える人材育成の核となる道立高校における職業教育は、農業、工業、商業、水産、家庭看護、福祉の職業教育を主とする学科を設置する高校（以下「専門高校」という。）を中心に行っています。

広域分散型の地域特性を有する北海道の特性上、学科や地域産業の特性等に依りて、56校(注)の道立専門高校が分散して設置されており、地域で活躍する職業人を育成するとともに、勤労観・職業観の育成、豊かな感性や創造性を養う総合的な人間教育の場としても大きな役割を果たしています。

(注)令和6年度入学者選抜実施校数に基づく。

北海道教育委員会

地域を創る人づくり

専門高校と産業界とのサステナブルな連携に向けて

こうした中、北海道教育委員会では、令和6年度からの2か年事業「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」に取り組んでいます。

本プロジェクトは、静内農業高校が国の「マイスター・ハイスクール事業」(令和3～5年度)で構築した職業人材育成システムを参考にして、専門高校と産業界のサステナブル(持続可能)な連携体制を構築することを目的としています。

本プロジェクトでは、横と縦の2つの視点で、専門高校を支援しています。

1つ目は、「横」のつながりとして、農業高校と工業高校など、専門高校が学科の垣根を越えて連携し、効果的な職業人材育成システムの取組を、他の専門高校に自走可能な形で横展開することです。

2つ目は、「縦」のつながりとして、専門高校と、企業や中学校との連携を促進するとともに、専門高校の価値や魅力を普及・啓発することです。

また、これらの取組を円滑かつ効果的に実行するため、高校教育課では、産業界等の有識者で構成される事業運営委員会「ONE-TEAMコミッティ」を設置・運営しています。

北海道が将来にわたって輝き続けていくためには、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念の下、地域への愛着・誇りを育み、夢や希望をもって地域の未来を切り拓く人材の育成を行うことが、地域づくりを支えることとなります。北海道教育委員会では、高等学校と地域との協働による活動や、地域の課題に対して探究的な学びを推進する活動などとおして、生徒の多様な可能性を育み、将来の北海道を支える人材の育成に取り組んでいます。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入など、産業構造が大きく変化している中、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する。

ONE-TEAMプロジェクト

専門高校と産業界の連携における課題

- ① 連携した取組が少ない
- ② 連携の進め方や配属点不明
- ③ ニーズ等が異なり、連携が進みづらい
- ④ 教員が多忙なため企業等と調整不足

横のつながり

横と縦の糸で専門高校のつながりを支援

専門高校が学科の垣根を越えて連携し、効果的な職業人材育成システムを、他の専門高校に自走可能な形で横展開

縦のつながり

専門高校と企業や中学校との縦の連携を促進するとともに、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校の価値や魅力を広く発信

ONE-TEAMコミッティの発足

有識者で構成し、本プロジェクトの推進に向けて、専門高校の役割や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言

本プロジェクトのゴールイメージ

産学連携コーディネーター
専門高校と産業界がサステナブルなつながり

KPI

- ① 産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合(道立の専門高校56校)
[R5: 7% (実績値)・R6: 14%・R7: 50%]
- ② 産業界の有識者を招いた協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を行っている専門高校の割合(道立の専門高校のうち、農工商水54校)
[R5: 54% (実績値)・R6: 61%・R7: 91%]

産学連携コーディネーターの役割

北の専門高校プラットフォームを創設

- ◆ 人のつながりを生む機会を創出
- ◆ 産学連携シンポジウムなど、産学連携に資する機会を創出し、専門高校と産業界等を、学科の特性に応じた人脈につなげる
- ◆ 産業実務家教員リスト2.0の作成
- ◆ 謝金等が不要で出前授業等が可能な職業人をデータベース化したリスト(R6作成)をアップデートし、産学連携を促進
- ◆ 新たな産業や専門高校への理解促進

DXを活用して働く専門高校の卒業生や、産学連携、学科の垣根を越えた連携などの事例を紹介するおしごとガイドブック2025を制作し、中高生や経済団体に配付

管理機関の役割

- ◆ ONE-TEAMコミッティを設置し、広域分散型の北海道における産学連携の推進に向けて、拠点校と協力しながらプロジェクトを展開
- ◆ 産学連携コーディネーターを配置し、専門高校の産学連携を支援
- ◆ 専門高校を拠点とした地域創生や地域人材の育成に資する取組を推進
- ◆ 専門高校の価値や魅力を産業界や中学校に普及・啓発

展開のイメージと拠点校の役割

【展開のイメージ】

- ◆ 北海道を4つの圏域に分割し、それぞれの圏域に拠点校を配置
- ◆ 各圏域ごとに参加によるイベントの開催が可能になり、地域に根差した活動が可能

【拠点校の役割】

- ◆ 管理機関と連携し、他の専門高校や産業界の関係者等に対して、産業界と連携した効果的な取組やその成果等を広く発信

広域分散型の専門高校を4つの拠点校で支援

【図61】北海道創生ジャーナル「創る」第29号(1ページ目/全2ページ)

※本事業に関係するページのみを抽出

創る ◆地域を創る人づくり



本プロジェクトの公式ロゴマーク
(中央の7つの星は7つの
職業学科を意味している)



本プロジェクトのWebページ

- ・小樽水産高校 (道史)
- ・室蘭工業高校 (道南)
- ・旭川商業高校 (道北)
- ・更別農業高校 (道東)

【令和7年度拠点校】

北海道教育委員会では、こうした取組を通じて、専門高校と地域の産業界との連携を一層推進するとともに、生徒が地域に愛着をもつことや、地域の産業への理解を深めるための教育を推進し、地域の産業を支える人材の育成に取り組んでいきます。

令和7年度は、広域な北海道において、専門高校が各地に分散している現状を踏まえ、4つの圏域ごとに、地域の産業界等と連携して、効果的な人材育成に取り組んでいる専門高校の中から拠点校を設定し、各圏域ごとに学校や産業界等の関係者が参集するイベントを開催することとしています。

令和6年度は、拠点校である静内農業高校の協力の下、札幌市内において開催した各種イベント等を中心として、専門高校における産学連携の充実を図ってきました。

今後に向けて

特徴的な取組

●新たな産業や技術革新への対応

新たな産業や技術革新に対応した学習の充実に向けて、道経済部と連携し、様々な取組を実施しています。

大学教授等による半導体に関する出前講座を高校25校で実施したほか、高校教員や企業関係者等を対象に、半導体関連企業や自治体と連携して人材育成に取り組んでいる苫小牧工業高校や熊本県教育委員会の取組などを紹介する「半導体理解促進セミナー」を開催しました。

また、洋上風力発電に関するメンテナンスマ材の育成・確保に資する取組として、工業高校や水産高校の生徒を対象に、企業関係者を講師とした出前授業を実施したほか、工業高校3校において、洋上風力発電施設の見学バスツアーを実施しました。



●産学連携シンポジウム

高校と産業界のサステナブルな連携に向けて、企業・教育関係者等が産学連携の意義等を共有することを目的として開催しました。

「産業界と連携した学びで私が出たもの」と題した生徒による発表後、生徒や経済団体・企業関係者など8名によるパネルディスカッションを行いました。

産業界の関係者からは「業界全体を考えると、人材育成につながる産学連携に取り組むことが重要」などの意見があったほか、高校生からは「出前授業は貴重な機会だが、企業の方と初対面では質問もしづらいので、長期的な関わりが欲しい」などの発言があり、参加者にとって、産学連携の在り方や今後の地域の担い手の育成について考える貴重な機会となりました。



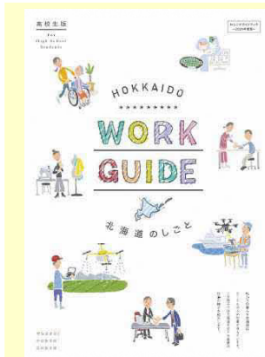
●おしごとガイドブック

新たな産業や働き方とともに、専門高校に関する理解を深めることを目的として、「おしごとガイドブック」を制作し、全道の中学校と高校の1、2年生に配付しました。

内容は、半導体関連産業や洋上風力発電、インバウンド観光に加え、DXなどを活用した建設業、農業、水産業など、地域創生を支える産業の担い手として活躍している専門高校卒業生の姿を紹介しています。

このほか、専門高校における「縦」のつながりとして、企業と連携して実習等に取り組んでいる事例、「横」のつながりとして、農業高校と工業高校など、学校や学科の垣根を越えた専門高校同士の連携事例も紹介しています。さらに、中学生版には、農業、工業、商業を学ぶ生徒3名による座談会の様子も掲載しています。

なお、電子データは、道教委のWebページに掲載しています。



本記事の取組は、北海道教育庁学校教育局高校教育課で担当しております。

10 お問い合わせ先 TEL:011-204-5705

【図 62】北海道創生ジャーナル「創る」第29号(2ページ目/全2ページ)

※本事業に関係するページのみを抽出

(2) 新聞記事

北海道通信（日刊教育版）令和6年6月19日（水）

静内農高でONE—TEAMコミッティ

産業界との連携充実を

道教委 道内専門高校へ横展開

【苫小牧発】道教委は14日、静内農業高校で北の専門高校ONE—TEAMプロジェクト「第1回ON E—TEAMコミッティ」を開催した「写真」。道教委担当者が事業の趣旨等を説明し、連携が可能な企業等の開拓や、教員・企業研修などを行い、専門高校と産業界との連携を二層充実させていくことを確認。高校教育課に新たに配置した産学連携コーディネーター

を中心に、専門高校と産業界をつなげるネットワークの構築や、新たな産業や先端技術者を紹介した「お仕事ガイドブック」の作成・配布を進めることなどを申し合わせた。道教委は、文部科学省の6年度マイスター・ハイスクール普及促進事業の採択を受け、本年度から北の専門高校ONE—TEAMプロジェクトに着手。3～5年度の国のマイスター・ハイスクール事業において静内農業高が構築した職業人材育成システムを道内の専門高校に広く横展開するとともに、産業界と専門高校の持続可能な連携の充実を目指している。



事業運営委員会「ONE—TEAMコミッティ」では、産学連携に係る課題解決に向けた協議、教員・企業向け研修の企画や事業の評価・改善を推進。プロジェクトを円滑に進めるため、年度計画や産学連携の充実に向け、専門的見地から指導助言を行う。第1回コミッティには委員6人が出席した。はじめに、道教委高校教

育課の今井真課長補佐が事業概要を説明。「連携した取組が継続しつらい」「ニーズ等が異なり、連携が進みづらい」など、専門高校と産業界の連携における課題を挙げた上で、連携が可能な企業等の開拓や、教員・企業研修の実施などによって、専門高校と産業界との連携を二層充実させる考えを示した。

また、高校教育課に新たに配置した産学連携コーディネーターの主な役割である専門高校と産業界等を人的につなげるネットワークの構築、謝金等が不要な職業人等をデータベース化する産業実務家教員リストの作成、新たな産業や先端技術者を紹介した「お仕事ガイドブック」の作成・配布について説明した。

続いて、静内農業高の赤穂悦生校長と工藤淳教頭が拠点校における白走化に向けた取組について説明。道内専門高校への横展開を見据え、マイスター・ハイスクール事業で構築してきた取組内容や機能のコンパクト化を図るとともに、現在の教育水準の維持・向上を図る考えを示した。

このあと、同校食品科学科2年の科目「食品製造」、生産科学科園芸コース2年の科目「野菜」、生産科学科馬事コース2年の科目「馬利用学」の実習を見学したほか、本年度の事業計画に関する協議を実施。協議では「産業界との連携を持続的に行うためには、一部の担当者だけに仕事が集中するのではなく、学校全体で取り組む組織体制の構築が重要」「地域に応援される学校であることが大切」などの意見が上がった。

第2回コミッティは10月に開く予定。また、道内の専門高校の代表者が一堂に会する「キックオフミーティング」を7月8日に札幌市内の第二水産ビルで参集とオンラインによるハイブリッドで開催する。

北の専門高校ONE-TEAMが会合

静内農高
産学連携

ノウハウを普及

道教委 持続可能な連携へ



道教委は8日、北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトキックオフミーティングを札幌市内の道第二水産ビルおよびウェブ会議システム併用で開催した。写真。事業概要や静内農業高校におけるマイスター・ハイスクール事業の成果、専門高校と産業界のサステナブル持続可能な

連携の在り方などについて共有。今後、静内農業高が取り組んできた産学連携のノウハウを道内の専門高校に普及・拡大していくことを確認した。

同プロジェクトは、文部科学省の採択を受け、本年度から実施するもの。マイスター・ハイスクール事業で静内農業高が構築した職業人材育成システムを道内の高校に広く横展開するとともに、産業界と高校の持続可能な連携の充実を目指している。

ミーティングには、事業運営委員や専門高校の職業学科担当教諭、教育局の指導主事らオンラインを合わせて約100人が参加した。

工藤教頭は、3年間の研究成果を振り返り「場当たり的で振り返りのない授業・イベントは、学習効果が低い」とし「探究のサイクルを意識した外部人材の活用が大切」と強調した。また、同校教育振興会の会員や関係機関、賛助会員らで構成する「静農コンソーシアム」を秋ごろの発足を目標として準備を進めていることを報告した。

続いて、藤田明帆ギャリア教育指導係長が事業概要を説明。道内の高校の産業界と連携した好事例を紹介したほか、同課に配置した産学連携コーディネーターの役割などを解説した。

道建設部や経済部、北海道建設業協会等の関係機関と連携した教員向けセミナーを開催することを報告。建設DXや6次産業化、洋上風力発電に関する取組を進め、産業構造の変化や新たな働き方への理解促進を図る方向性を示した。

このあと、前年度まで同校のマイスター・ハイスクールCEOを務めた北海道農産協会の桑名真人てん菜部長が「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方」をテーマに基調講話したほか、月館海斗産学連携コーディネーターをファシリテーターにグループ協議を実施。参加者からは「学校を理解してくれる地域が増えてほしい」「学校と地域がウィンウィンになるような取組を進めたい」などの声が上がった。

道建設部と道教委が初のセミナー

建設DXの理解促進へ

岡崎氏（荒井建設）が教員に講演

道建設部と道教育委員会は26日、教員向け建設DX理解促進セミナーをオンライン開催した。普通科高校

教諭らに伝え、専門的な学習を積む生徒以外にも間口を拡大して入職の可能性を探っていく。

講演では、荒井建設の岡崎取締役土木技術部長が、土木工事と建築工事の違い

や自然災害の対応をはじめとする建設業の使命を紹介。本題のDXに関しては、ICTやBIM／CIMの活用が一般化してきている状況を示し「昔前とは異なり、工業高校や高専

で専門的な学習を積んできた方だけでなく、普通科高校の卒業生や女性活躍する場面が確実に増えている」と強調した。

つぎに、建設ディレクター協会の藤田歩実氏が「建設業における新しい職業『建設ディレクター』について」と題して説明。具体的には、ヤマグチ（鹿児島）土木工事管理室の馬場洋介氏が育成面、長坪

和氏と原田杏瑞氏がやりがいの観点から建設ディレクターの重要性を示した。事例発表では、室蘭工業

高校環境土木科長の鈴木圭吾教諭が「地元建設業協会と連携した企業実習の取組」をテーマに解説。企業実習の実施に至った経緯や本年度から3カ年の工程表などを紹介し、「企業と生徒が対話できる貴重な機会。建設現場の魅力を伝え

ることで、業界全体のイメージアップにもつながっている」と成果を口にした。

セミナーに参加した高校からは「建設業の新たな働き方を深く知ることができて有意義だった。関心を抱く生徒たちも多いと思うので、きょう得た情報を正確に伝えたい」などと初めての取組の有効性を示す意見が多く聞かれた。

建設業への理解促進を図る新たな試み。荒井建設（旭川）の岡崎竜志取締役土木技術部長は「DX化に伴い変革が進む建設業における業務内容と働き方」をテーマに講演し、業界の魅力を強みにPRした。

セミナーは、担い手の確保・育成が最たる課題として位置付けられる本道建設業への入職促進を目的に開催。ICT技術の活用をはじめ、働き方の選択肢が広がっている建設業の魅力を普通科高校の進路指導担当

職業学科理解推進ガイド

中学生の進路選択に

ONE-TEAM 学習内容紹介

道 教 委

道教委は、北海道産業の担い手を育成する本年度新規事業「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の一環で、中学生の進路選択に役立つリーフレット「職業学科理解推進ガイド」を作成した。道内公立高校に設置している職業学科7科の学習内容を一挙掲載している。

福祉の七つの職業学科ごとに、学びのカテゴリーや小学科の学習内容、実習テーマなどを掲載している。

農業科では「生産技術・経営」「食品」「国土の保全や環境創造」「植物や動物、地域資源の活用や地域振興」に関するこの4点を学びのカテゴリーとして分類。工業科では「機械系」「電気系」「情報系」「建築系」「土木系」「化学系」の6分野における教育活動を

紹介している。商業科では、基礎的科目、総合的科目のほか「マーケティング」「マネジメント」「会計」「ビジネス情報」の4分野における学習内容を掲載している。

道教委は、同ガイドを活用し、職業学科への理解を深める参考資料とするなど、中学校の進路指導に活用するよう呼びかけている。



水産科では「海洋漁業系」「海洋工学系」「情報通信系」「資源増殖系」「水産食品系・その他」の四つのカテゴリーに分類。また、漁業を学び、国際交流も行う乗船実習や「若竹丸」「北鳳丸」の2隻の実習船を紹介している。

家庭科では、江別高校の生活デザイン科と立別高校の家政科が該当する「家政系」を紹介。

美唄聖華高校と稚内高校で設置する看護科では、多様な看護の場を想定した実習を行う「衛生看護科」の実習内容を伝えている。

福祉科では、置戸高校の福祉科をはじめ、留寿都高校の農業福祉科農業福祉コース、剣淵高校の総合学科生活福祉系列など、介護福祉士国家試験の受験資格が得られる教育活動を紹介している。

道教委は、同ガイドを活用し、職業学科への理解を深める参考資料とするなど、中学校の進路指導に活用するよう呼びかけている。

職業学科理解促進セミナー初開催

中学校進路指導充実へ

道内7学科の特色など解説

道 教 委

道教委は7日、オンラインで中学校教員向け職業学科理解促進セミナーを初開催した。先に作成した「職業学科理解推進ガイド」を活用しながら道内の職業学科7学科の教育活動の特色や小学科の教育内容などを解説。説明は、道教委高校教育課キャリア教育指導係が担当し、高校の職業学科への理解の深化、中学校に

おける進路指導の一層の充実につなげるよう呼びかけた。セミナーは「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の一環。中学校教員が高校の職業学科に関する理解を深め、中学校における進路指導の一層の充実を図ることをねらったもの。

道教委高校教育課キャリア教育指導係の各担当者がア教育指導係の各担当者が①農業科②工業科③商業科④水産科⑤家庭科⑥看護科⑦福祉科の順で二コマ当たり15分程度で説明。各説明には、先に作成した「職業学科理解推進ガイド」を活用した。

農業科では、農業高校での学びのカテゴリーとして「生産技術・経営」「食」品「国土の保全や環境創造」「植物や動物、地域資源の活用や地域振興」の4点を示し、各カテゴリーにおける教育活動を伝えた。

また、農業高校生全員が農業クラブ員となり、農業学習を通して、科学性・社会性・指導性の向上を目指して学習や特別活動に取り組む「農業クラブ活動」を紹介した。

工業科では、学びのカテゴリーとして「機械」「電気」「情報」「建築」「土木」「化学」の6点を示し、写真と共に主な学習内容や就職先、取得できる資格などを紹介。

それそれぞれの学科の特徴などについて理解し、一人ひとりの希望を尊重した進路指導を行うよう呼びかけた。

商業科では、教科「商業」の科目の構成について商業における基本的な事項を学ぶ科目として「ビジネス基礎」「ビジネス・コミュニケーション」を示し、特に「ビジネス基礎」は全ての商業に関する学科で履修することとなっていることを伝えた。

また、総合的科目として、ビジネスに関する課題について、調査・研究する科目「課題研究」や「総合実践」などを紹介した。

水産科では、小樽水産高校、函館水産高校、厚岸翔洋高校の水産科設置校3校のほか、海技士の上級資格取得を目指す専攻科「漁業科」「機関科」や、総合無線通信士や特殊無線技士など通信・電気に関わる資格取得を目指す専攻科「情報通信科」を紹介した。

家庭科では、江別高校生活デザイン科の「服飾コース」と、染織インテリアコース、当別高校家政科の「保育コース」と「食物調理コース」の活動や主な検定などを伝えた。

看護科では、美唄聖華高校と稚内高校において、高校の看護に関する3年間の学科とその後の2年間でさらに専門性を高める専攻科において5年間の一貫したカリキュラムで看護師を養成するための教育を行っている「5年一貫教育」を実施していることを紹介した。

福祉科は、学科設置校の置戸高校において、2年度から4年連続で介護福祉士合格率100%となっていることを報告。また、3年で介護福祉士の受験資格が得られる「プロフェッショナルコース」と介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）の資格取得を目指す「ダイバーシティコース」の2コースを紹介した。

道教委 初の産学連携シンポジウム

持続可能な体制構築へ

専門高校3校生徒が発表

道教委は18日、道第二水産ビルで「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」産学連携シンポジウムを初開催した。農業・工業・商業の学科を設置する専門高校3校の生徒や国分北海道（株）人事総務部の萩庭寿人部長による事例発表、高校生と産業界によるパネルディスカッションを実施。専門高校と産業界との連携でもたらす効果について共通理解を図ったほか、今後も同プロジェクトを通して双方の連携を深め、北海道を一層盛り上げていくことを確認した。

シンポジウムには、道内企業や経済団体等の関係者、教育関係者らオンラインを合わせて約140人が参加した。

開会に当たり、高校教育課の今井真課長補佐があいさつ。シンポジウムの成果を高校と産業界とのさらなる連携の推進につなげるとともに、今後の専門高校と産業界の持続可能な連携体

制の構築に向けて実り多い機会となるよう期待した。

得たもの」をテーマに事例を発表した。

三浦さんは、同校馬事コースで日本中央競馬会や日本軽種馬協会等と連携して行った繁殖牝馬の繁殖期における繁殖（れつてい）の処置に関する研究内容を発表。「今後も地域の関係機関と連携し、優良な競争馬を生産するため、残り数カ月の学校生活を過ごして

いきたい」と意気込んだ。飯島さんは、河川の生態系や治水を学ぶ環境学習、先端技術講義など、建設業者や大学等と連携した取組を紹介。産業界と連携した学びで得た経験をもとに「今後、高度専門キャリアを目指し、地域産業を支え、地元貢献できる人材になりたい」と胸を張った。

佐藤さんは、同校と旭川農業高校が連携し、互いの強みを生かして旭川や産業全体の活性化につなげる「Project A」の実践を発表。「専門分野である商業知識を応用し、プロモーション活動を行ったことで、販売促進だけではなく自分たちの学習をあらためて復習するきっかけになった」と振り返った。

生徒の発表を受け、萩庭部長が「専門高校との連携が企業にもたらす効果について」と題して事例発表を



このあと、同プロジェクトの月館海斗産学連携コーディネーターの進行のもと「専門高校と産業界のサステナブルな連携の在り方」と題してパネルディスカッションを実施。事例発表した4人に、道経済連合会の百瀬康弘常務理事、（株）砂子組企画営業部の真坂紀至部長、ことし3月に静内農業高を卒業し国分北海道に就職した高橋柚珠乃さんをパネリストに加え、熱い討論を展開した。

道教委 半導体理解促進セミナー

道内での人材育成必要

北大・葛西教授招き初開催

道教委は14日、北の専門
高校ONE-TEAMプロ
ジェクトの一端で半導体理
解促進セミナーをオンライン
開催した「写真」。北海
道大学総長補佐・量子集積
エレクトロニクス研究セン
ターの葛西誠也教授が「半
導体の今と未来について」
と題して講演。葛西教授
は、携帯電話やゲーム機を
例に、半導体技術の進化に
ついて解説したほか、今後
道内において半導体人材を
育成する必要性を示した。
セミナーは、マリス

ター・ハイスクール普及促
進事業「ONE-TEAM
プロジェクト」の一端で初
開催したもの。
高校教員等が先端半導体
に関する理解を深め、本道
産業構造の変化に対応した
指導の充実を図るとも
に、高校と産業界等が一体
となった半導体人材育成の
取組を推進することをね
らった。

当日は、公立高校の進路
指導を担当する教諭や理科
および工業等の教科指導を
担当する教諭、各教育局の
キャリアプランニン
グスーパバイ
ザー、半導体関連産
業の企業・経済団体
関係者ら約100人
が参加した。

葛西教授の講演で
は、携帯電話を例に
「半導体とは何か」
について説明。携帯
電話の中の部品を写
した写真を示し「マ



られてはいる回路が細かく
なっている」などと、ここ
数十年で半導体技術が猛ス
ピードで進化していること
を伝えた。
このほか、半導体関連産
業が道内において増えてい
る現状を示し、道内で半導
体人材を育成する必要性を
強調。半導体は裾野が広
い産業であり、様々な分野
の人が関わることができ
る。単に電子・電気だけで
はなく、情報や材料、機械
など各分野で活躍できる人
材が必要とされていること
を説明した。

また、ゲーム機を例に半
導体の変遷にも触れ「初期
から後期に移るにつれて作
る部品が小さくなり、機能
が高くなる」と解説した。

増田主幹は、知事部局が
推進する半導体認知度の向
上を目指した動画制作の取
組や、市町村が行う半導体
研修受講支援に対する補助
事業などを紹介。また、熊
本大学で半導体に関わる課
程を新設したことや県立技
術短期大学で新学科を設置
したことなど、高等教育機
関において高度な半導体人
材育成に取り組んでいるこ
とを伝えた。

このあと、平成29年3月
に名寄産業高校電子機械科
を卒業し、現在、ミツミ電
機（株）千歳事業所ウエファ
製造部生産設備課で勤務す
る上野龍之介さんが「半導
体製造装置メンテナンスエ
ンジニアの仕事とやりがい」
について説明。

また、苫小牧工業高校情
報技術科の田中俊正教諭が
「企業と連携して取り組む
半導体を通じたSTEM
教育の実践」をテーマに事
例を発表した。
参加者からは「歴史的な
部分も含めて、半導体の現
状や今後の課題等が分かっ
た。先進県の取組も知るこ
とができた」「半導体がど
のように役立っているの
か、半導体のこれまでの進
化についてよく分かった」
などの感想が寄せられた。

ONE—TEAM 4Sサミット

縦横のつながり構築へ

持続可能な取組目指し道教委

道教委は24日、札幌市内の道第二水産ビルで北の専門高校ONE—TEAMプロジェクト「4Sサミット」を開催した。写真＝。

道教委は24日、札幌市内の道第二水産ビルで北の専門高校ONE—TEAMプロジェクト「4Sサミット」を開催した。写真＝。

史や食品製造の流れ、物流の仕組みなどを解説。辻道本部長は「食料基地としての北海道の様々な食材をどのように消費者まで届けるかがわれわれの重大な使命」と強調した。

つくりの協定や災害時の物資供給協定など地域に根差した特色ある取組を紹介。また、食品ロス削減に向けたリサイクル事業や地域からの要請に応じて出店した事例などを伝えた。

このほか、高校生が考えたスイーツを競い合うコンクール「ハイスクールパティシエロワイヤル」や「フードロス削減アイデアコンテスト」など、高校生と産業界が連携した持続可能な取組を紹介した。

最後に、同社が求める人材として「失敗を恐れず様々なことに挑戦できる人」「自ら学び成長する人」「自ら考え実行できる人」などを挙げ「企業目的に共感し、北海道の人々・社会に誠実に向き合う人を求めている」と話した。

講演後には「縦のつながり」企業や中学校とのサステナブルな連携の実現に向けて「横のつながり」職業学

科の垣根を越えた専門高校ONE—Teamの実現に向けての二つを議題に協議。はじめに、高校教育課キャリア教育指導係の藤田朋軌係長が同事業の趣旨および次年度の方向性などについて説明した。

藤田係長は、次年度から農業・工業・商業・水産において拠点校を各1校選定し、4校体制で取組を進めていく方向性を提示。広域な北海道で、専門高校が分散している現状を踏まえ、四つの圏域に拠点校を設定することで地域ごとに参集するイベントが開催できる利点を示した。

参加者からは「産業界と学校の双方にメリットがないと持続可能なものにするのは難しい」「職業高校で学ぶ教育内容を知ることや業界・企業としての魅力を高校に発信するなど、相互に理解することが大切」などの意見が上がった。

道教委は24日、札幌市内の道第二水産ビルで北の専門高校ONE—TEAMプロジェクト「4Sサミット」を開催した。写真＝。

道教委は24日、札幌市内の道第二水産ビルで北の専門高校ONE—TEAMプロジェクト「4Sサミット」を開催した。写真＝。

史や食品製造の流れ、物流の仕組みなどを解説。辻道本部長は「食料基地としての北海道の様々な食材をどのように消費者まで届けるかがわれわれの重大な使命」と強調した。

つくりの協定や災害時の物資供給協定など地域に根差した特色ある取組を紹介。また、食品ロス削減に向けたリサイクル事業や地域からの要請に応じて出店した事例などを伝えた。

このほか、高校生が考えたスイーツを競い合うコンクール「ハイスクールパティシエロワイヤル」や「フードロス削減アイデアコンテスト」など、高校生と産業界が連携した持続可能な取組を紹介した。

最後に、同社が求める人材として「失敗を恐れず様々なことに挑戦できる人」「自ら学び成長する人」「自ら考え実行できる人」などを挙げ「企業目的に共感し、北海道の人々・社会に誠実に向き合う人を求めている」と話した。

講演後には「縦のつながり」企業や中学校とのサステナブルな連携の実現に向けて「横のつながり」職業学

科の垣根を越えた専門高校ONE—Teamの実現に向けての二つを議題に協議。はじめに、高校教育課キャリア教育指導係の藤田朋軌係長が同事業の趣旨および次年度の方向性などについて説明した。

藤田係長は、次年度から農業・工業・商業・水産において拠点校を各1校選定し、4校体制で取組を進めていく方向性を提示。広域な北海道で、専門高校が分散している現状を踏まえ、四つの圏域に拠点校を設定することで地域ごとに参集するイベントが開催できる利点を示した。

参加者からは「産業界と学校の双方にメリットがないと持続可能なものにするのは難しい」「職業高校で学ぶ教育内容を知ることや業界・企業としての魅力を高校に発信するなど、相互に理解することが大切」などの意見が上がった。



開会に当たり、道教委高校教育課の高田安利課長があいさつに立ち「サミットの内容を企業や産業界、専門高校の各部署等に持ち帰っていただき、今後の専門高校と産業界とのさらなる連携の推進に生かしてほしい」と期待した。

辻道本部長の基調講演では、同社の歴

道教委 産学連携カンファレンス

持続可能な体制構築へ

高校・企業のつながり深める



道教委は20日、札幌市内の道第二水産ビルで、北の専門高校ONE-TEAM 真。厚岸翔洋高校が産業プロジェクト産学連携カンファレンスを開催した。写真

界との連携やIT技術を活用した取組事例を発表したほか、教員、生徒、企業、経済団体の関係者によるグループ協議を実施。産学連携体制の重要性や意義、今後の在り方について活発に意見を交わし、相互のつながりを深めた。

道教委は本年度から同プロジェクトを開始。専門高校と産業界が連携して取り組んできた職業人材に係る教育活動を広く展開し、持続可能な連携の充実を図ることを目的としている。

専門高校の職業学科の担当教諭や代表生徒、企業・経済団体の関係者ら約140人が参加した。

開会に当たり高校教育課の高田安利課長があいさつ。産業界と連携している専門高校の取組や成果を共

有し、持続可能な連携体制の構築につながるよう会議の成果に期待を寄せた。

続いて厚岸翔洋高の長谷川智人教頭が3年間で取り組んできた産学連携の取組事例を発表。漁獲データのデジタル化、水中ドローンの有効活用、アメマスを活用したかまぼこの製品化など探究活動を紹介した。企業・関係機関と連携する際の留意点も解説し、連携の目的の明確化、業務平準化を踏まえた役割分担

など組織体制のポイントを示した。

発表後、教員、企業関係者、生徒で意見交換を実施。地域の担い手を育成する専門高校の役割、産業界と連携した生徒たちの探究活動や自身の成長について話し合った。

参加企業からは「企業とのつながりをつくるため、教員に技能実習に参加してもらってはどうか」「小中高生向けの企業体験フェスティバルを行ってみたい」

などの提案があり、今後の連携の足掛かりにしている様子だった。

道教委は7年度から農業、工業、商業、水産分野に係る拠点校を道内4圏域で指定し、同様の会議を各圏域において開催することを計画している。産業界との連携・協働体制を組織的に構築している専門高校の割合を14%から7年度末までに50%に引き上げることを目指しており、連携をさらに進めていく考えだ。

道教委 観光産業理解促進セミナー

人材の育成・確保を

データ活用、地域連携も

道教委は2月19日、オンラインで北の専門高校ON E-T E A Mプロジェクト

「観光産業理解促進セミナー」を開催した。北海道観光機構事業企画本部の生川幸伸副本部長と小樽観光協会の永岡朋子事務局次長が観光に関する取組についてそれぞれ講演。データを活用した観光振興や地域との連携の重要性、観光人材を育てることで、観光客の再訪につながることを述べた。

セミナーは、高校教員等

が観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実に努めること、高校と産業界が一体となった観光産業を担う人材育成の取組を推進するもの。公立高校等の進路指導を担当する教諭等、商業や総合的な探究の時間等で観光に関する取組を担当する教諭をはじめ、各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザーら36人

が参加した。

この日、道観光機構事業企画本部の生川副本部長が「北海道の観光における現状と人材育成」、小樽観光協会の永岡事務局次長が「小樽市の観光DX推進に関する取組」と題してそれぞれ講演した。

生川副本部長は、データに基づき、観光産業の現状について説明。コロナの影響で観光人材が流失したため、観光関連の人材の確保が課題であることや、観光コンテンツを強化させる重要性などを示した。

永岡事務局次長は、これまでデータ活用が不十分であった等の反省点を生かし

た実践を紹介。DXを活用した再来訪の促進や、PRをするターゲットの設定、ファンづくりなどに力を入れていることを伝えた。

参加者からは「観光関連人材の育成について知ることができた。特に宿泊就業体験や訪日教育旅行の受け入れに関しては検討したい」「データを活用した観光振興や地域との連携の重要性等について、示唆に富んだ講演で勉強になった」「観光人材を育てることで、地域のホスピタリティが向上し、観光客の再訪につながるという考え方に感銘を受けた」などの感想が寄せられた。

ONE—TEAMプロジェクト

専門高 価値・魅力発信へ

道 教 委

7年度 S7サミットなど

道教委が本年度から取り組んでいる「北の専門高校ONE—TEAMプロジェクト」における7年度の取組の方向性が明らかになった。拠点校同士の交流、役割等の共通認識を図る「拠点校ミーティング」、七つの職業学科の代表者らが一堂に会し産学連携を一層深める「S7サミット」、2年間の事業成果を共有する「ONE—TEAMフェスタ」などを計画。各種イベントを通じて産学連携を一層強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を進める。

本年度開始した同プロジェクトは、専門高校と企業や中学校等との連携を推進し、専門高校の価値や魅力を啓発する「縦のつながり」とともに、専門高校が学科の垣根を越えて連携し、市内農業高校をはじめとした効果的な取組を他の専門高校に自走可能な形で展開する「横のつながり」を構築するもの。	事業初年度の6年度は、市内農業高を拠点校に、各種ミーティングを通して、専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方を発信。道教委高校教育課に配置している産学連携コーディネーターが各職業学科を担当する指導主事と協働し、専門高校と産業界の連携を支援してきた。	は、専門高校や産業界等を対象としたイベント等を通じて、人的ネットワークを強化し、持続可能な職業人材育成システムを構築。中高生や教員が新たな産業構造や専門高校の価値・魅力を理解する機会を創出し、地域の担い手となる人材育成を推進する。	取組の推進に当たって、農業・工業・商業・水産の
---	---	---	-------------------------

もに、拠点校の役割の共通認識を図る。その後、各圏域で6、7月に産学連携シンポジウム、10、11月にONE—TEAMフォーラムを実施する。

全道の取組として、8年1月に「北の専門高校S7サミット」、2月に「北の専門高校ONE—TEAMフェスタ」を計画。

S7サミットは、本年度実施した「4Sサミット」をさらに発展させたもので、七つの職業学科の代表者や産業界関係者、産学連携コーディネーターらが一堂に会し、産学連携に資する講演を実施する。また、7年11月に予定している道産業教育審議会建議の概要を共有した上で意見交換等を行う。

ONE—TEAMフェスタは、プロジェクトの集大成となるイベント。2年間の事業成果を共有し、事業が終了する8年度以降の持続可能な産学連携につなげる。

本年度実施したオンラインセミナーについては、新たな産業の働き方に加え、専門高校の取組や魅力などを、高校教員だけではなく、中学校の教員や産業界に広く発信。10月実施予定の「専門高校ユナイテッド」では、先行事例を有する他県の専門高校とタッグを組み、生徒、教員による協議等を行う予定。

7月実施予定の「専門高校魅力発見ミーティング」は、中学生の保護者や中学教員を対象にしたイベントをオンラインで開催。専門高校の価値や魅力を発信するほか、中高連携による成果等を発信する。

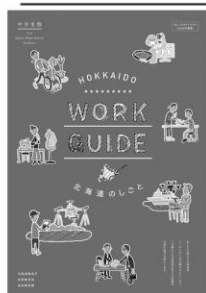
このほか出版物に関わって、本年度作成した「産業実務家教員リスト」をさらにアップデートし、関係者に配布する予定となっている。

専門高の魅力を一冊に

道教委 おしごとガイドブック

卒業後の進路、連携事例等

道教委は、道内の専門高校の価値や魅力を一冊にまとめた「おしごとガイドブック」（中学生版・高校生版）を発行し、道内の中学校、高校等に配布した。専門高校の卒業生で、卒業後に技術者として活躍する人たちの仕事内容・やりがいのほか、道内の専門高校と地域の企業、中学校等と連携した取組や、専門高校同士の学科の垣根を越えた連携事例などを紹介。道教委は、中高生が先端技術を活用する産業分野に関し、職業理解を深めるための参



道教委は、道内の専門高校の価値や魅力を一冊にまとめた「おしごとガイドブック」（中学生版・高校生版）を発行し、道内の中学校、高校等に配布した。専門高校の卒業生で、卒業後に技術者として活躍する人たちの仕事内容・やりがいのほか、道内の専門高校と地域の企業、中学校等と連携した取組や、専門高校同士の学科の垣根を越えた連携事例などを紹介。道教委は、中高生が先端技術を活用する産業分野に関し、職業理解を深めるための参

事者との「海見える化」に向けた取組などを展開している。

学科の垣根を越えた連携事例では、岩見沢農業高校と札幌工業高校の生徒が連携した「ニールハウスのスマート化」の取組を紹介。札幌工業高校の生徒が「ニールハウス内の温度・照度の自動計測や散水等の遠隔制御を可能にするシステムを開発し、岩見沢農業高校のハウス内で行った実証実験の様子などを伝えている。

このほか、中学生版では、産学連携コーディネーターと専門高校で学ぶ高校生3人による座談会の様子を掲載。農業・工業・商業それぞれの専門高校における学習内容や産業界と連携した取組などについて語っている。

高校生版では、北海道の未来と地域を支える人材育成の取組を紹介。大学教授による半導体出前講座や洋上風力発電施設の見学、新幹線トンネル工事の見学など、各専門高校の特色ある教育活動を掲載している。ガイドブックは、道教委

道教委 専門高56校に配布

産業界実務家 教員リストを作成

1日現在36社登録 今後も更新

道教委は、北の専門高校「クト」の一環で「産業実務家実務家 教員リスト」を作成し、道

内の専門高校56校に配布した。企業名や連携が可能な地域、分野、内容などを集約したもので、1日現在で36社が登録している。リストは今後も更新していく予定で、道教委は、同リスト

を活用し、産業実務家教員と学校の連携が一層進むことに期待している。

産業実務家教員リストは、専門高校と連携が可能な各産業に従事する職業人または事業所をリスト化したもの。専門高校と産業界の双方にとってプラスになる持続可能な関係を構築すること、生徒に対して、高度な知識・技術や実践的・体験的な学習機会を提供することを目指している。

リストでは、企業名や地域、「建設DX」「半導体関連」など連携可能な分野のほか「出前授業」「職場見学」「インターンシップ」など専門高校と連携して実施できる内容などを集約。1日現在で36社が登録しており、リストは今後も更新していく予定だ。

道教委では、地域産業の

人材育成に向け、産業実務家教員と学校が意見を交わすことで連携の強化が図られることを期待している。

マイスター・ハイスクール普及促進事業
「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」
令和6年度（2024 年度）成果報告書

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目 TEL 011-204-5705

Web ページ https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/sangyo_top.html

